

清く豊かに川は流れる

〔アジェンダ21桂川・相模川〕

2005年度活動報告

桂川・相模川流域協議会

巻頭のごあいさつ

桂川・東部地域協議会も発足して久しいが、大気の汚染の調査、桂川の清流に流れ込む水質の学習会、河川の清掃、清流を生み出す森づくり、きのこの植菌、炭焼体験等活動内容も充実し、循環型社会の構築にむけて、同志の集まりも年々増えています。

本年2月1日より浄化槽法が施行、その目的に公共用水域の水質保全が明記され、放流水の水質基準や維持管理・清掃の監督強化、違反行為に罰金が盛り込まれました。現行の下水道事業は、地方自治体において大きな財政負担となっています。国土交通省は下水道使用料金について、事業の管理運営費のすべてを回収できる水準に設定し、確実に徴収するよう通知してきています。このことは、まさに受益者負担増につながり、下水道事業そのものが地方において破綻しかねません。桂川流域においても排水計画の早急かつ適切な見直しがされるべきです。

激動する社会に、一滴の水にこもる天地の恵みに感謝しつつ会の発展に励むものです。

市民部会 桂川・東部地域協議会会長 勝俣 藤久

北都留森林組合は、山梨県北都留地域（上野原市・小菅村・丹波山村）にある森林組合です。私どもは当協議会の基本理念に賛同し、森林整備を通じ会員の皆様と共に歩んでいきたいと願っております。

2005年度は、上下流交流事業として、桂川・相模川の源流の森づくり体験（間伐体験&森のコンサート）を企画実施させて頂きました。神奈川・山梨両県より多くの方々にご参加頂き、上野原市の学校林周辺をフィールドとして、「森」をテーマに集い語らうことができました。スタッフをはじめ多くの皆様のご協力とご支援に感謝申し上げます。また、ご参加頂いた皆様からは、はじめての森林整備（間伐体験）や森のコンサートに多くの喜びの声も頂戴いたしました。

私どもは、これからも「森」について桂川・相模川流域の皆様方と一緒に考え、活動していきたいと考えております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

事業者部会 北都留森林組合代表理事組合長 加藤 亀吉

大月市は、面積280km²でその87%を森林が占め、市域の東西方向に笹子川・桂川が流れ、緑豊かな自然を形成しています。

この豊かな自然を守るべく定期的な河川水質調査や「清流をまもる集い」など環境保全の啓発事業に対して積極的な取り組みを行うとともに、首都東京に隣接していることから「自然と共生する環境調和都市」を目指しております。

この度、協議会の幹事として会議に出席し、事業のお手伝いが出来たことに対し大変、意義があったかと思われます。

近年、国の三位一体改革により地方自治体には特に、行財政の健全化が求められており、これからは「市民との協働」が重要課題となってきます。当協議会が市・県域を超えて「市民・事業者・行政」一体となって流域の環境保全活動を行っていることは、大きな評価をされるべきものであり、今後も末永い活躍を期待しております。

行政部会 大月市環境課 三木 裕

目 次

「アジェンダ 21 桂川・相模川」基本理念	3
2005 年度の主な行事の概要	4
桂川・相模川流域協議会の組織	6
1 総会・部会等の開催	7
(1) 会議開催状況	7
(2) 専門部会の開催	11
ア アジェンダ専門部会	11
イ 森づくり専門部会	12
2 上下流交流事業	15
(1) 相模湾船上観察会・交流会	15
(2) 行ってみよう！森の中へ～間伐体験&森のコンサート～	16
3 桂川・相模川流域シンポジウム～桂川・相模川の未来を創ろう～	18
(1) はじめに	18
(2) 開催の趣旨	19
(3) 当日のプログラム	19
(4) 分科会概要	20
4 環境調査事業	24
(1) シジミ類共同調査	24
(2) 身近な水環境全国一斉調査	30
5 流域ツアー&ウォッチング	32
6 桂川・相模川クリーンキャンペーン 2005	34
7 流域データベース化共同事業	40
8 会報誌の発行	42
9 ホームページの運営	43
10 地域協議会の活動	44
(1) 桂川・東部地域協議会	44
(2) さがみはら地域協議会	46
(3) 相模川湘南地域協議会	48
(4) 相模川よこはま地域協議会	50
11 その他の事業	52
(1) 森づくり関係事業（「笹子の森」水源地観察会）	52
(2) 洗剤対策事業	53
(3) 外部との交流・連携	54
資料	57

「アジェンダ 21 桂川・相模川」基本理念

私たちは、桂川・相模川の将来像を「清く豊かに川は流れる」とイメージします。

河川の豊かな水は、多くの生物を育み、生物はまた、水を自然浄化します。清流は、ただ清らかに澄んでいるだけでなく、流れることによって、豊かで多様な生物の共存を可能にしています。

桂川・相模川は、これまで、清く豊かな流れによって森と海を結び、空と地表と地下をつなぎ、多様な生物と人間を共存させ、地域の風土と文化、経済の中心になってきました。

しかし、20 世紀半ば以降、首都圏の周縁をなす流域とその周辺の人口の増加、社会経済の急激な発展を背景に、水需要が増大し、川の水が大量に使用されるとともに、汚濁物質が流入するなど、桂川・相模川の水量の減少と水質の悪化は大きな問題になっています。

また、治水事業・利水事業は、私たちの安全で快適な生活の確保に役割を果たしてきましたが、反面では、生物の生息・生育環境を含めた自然環境に大きな影響を与えています。

私たちは、古くから桂川・相模川の恩恵を一身に受けてきました。そして、今日、桂川・相模川は、流域の住民はもとより、その恵みを受けているすべての生物と人々、あらゆる主体にとっての共有財産となっています。

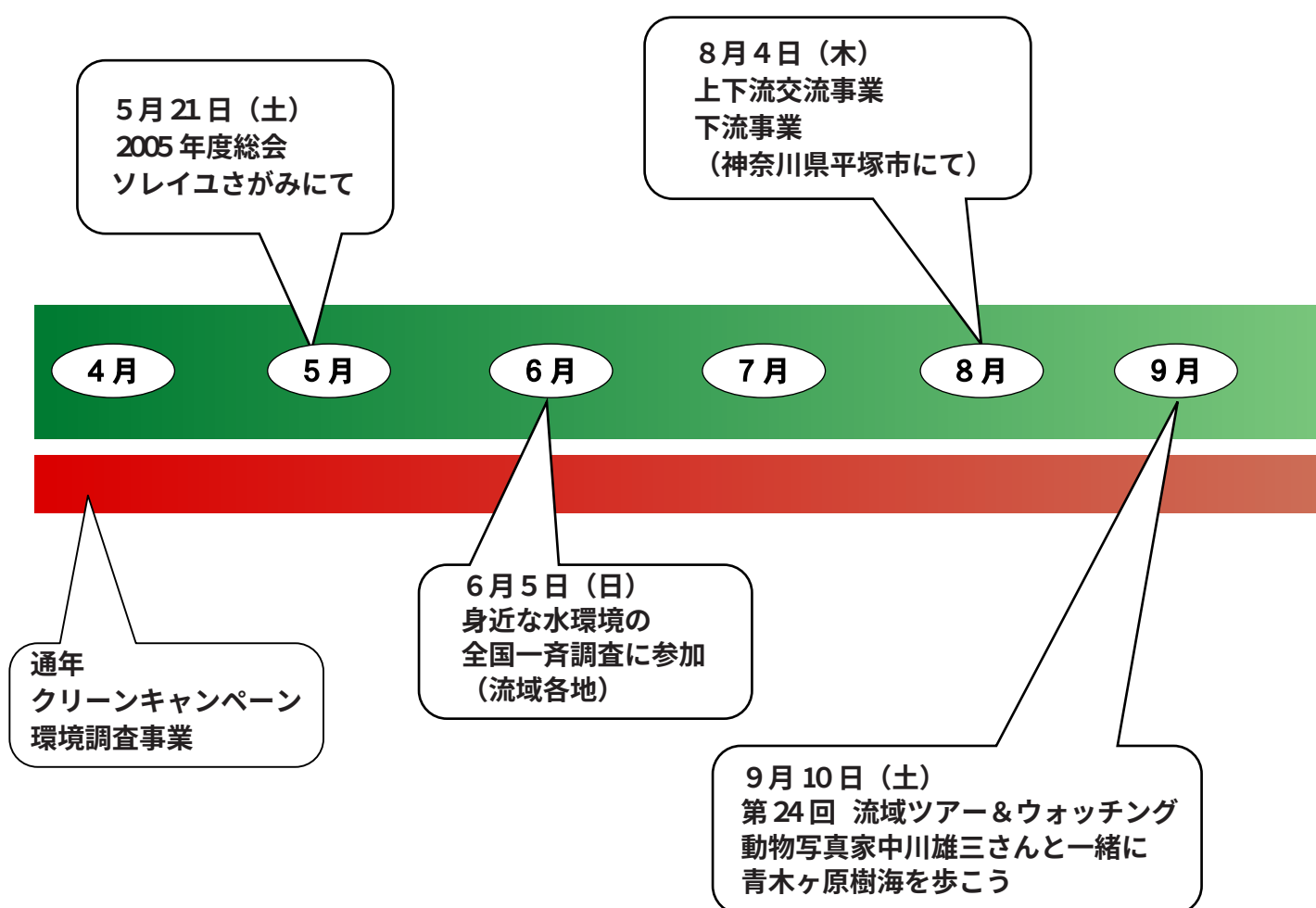
こうした認識のもとに、私たちは、桂川・相模川を悠久のものとして将来の世代に引き継ぐため、市民、事業者、行政の合意に基づいて、次のことを基本理念として、「アジェンダ 21 桂川・相模川」を策定し、実行していきます。

- (1) 私たちは、清く豊かに流れる桂川・相模川の恵みの中で、健康で安全かつ文化的な生活を営む権利を有するとともに、この川の恵みを将来にわたって子孫とすべての生物が公正に受けられるよう継承する責務がある。
- (2) 私たちは、流域に関わるすべての人々の社会経済活動や生活様式が桂川・相模川に大きな負荷を与えていることを認識し、これらを環境の視点から見直し、豊かで多様な生命を育むことができる、環境への負荷が少ない持続可能な発展を基調とした環境保全型社会を形成するよう行動する。
- (3) 私たちは、桂川・相模川に係わるすべての事業活動において、地域の自然的社会的条件に応じて、その計画段階から、良好で健全な自然環境の保全・回復を重視し、生活環境及び社会環境についても、総合的に配慮する。
- (4) 私たちは、上流と下流、市民と事業者と行政など、様々な立場の違いを越えて互いに交流を深めながら協働するとともに、自らの責務を自覚し、各々の役割分担と公平な負担のもとに、自主的かつ積極的に行動する。
- (5) 私たちの行動の前提として、情報の共有化が必要であり、桂川・相模川に関する市民、事業者、行政の情報は、公開を原則とする。

私たちは、桂川・相模川に係わる政策や事業の立案と推進にあたって、桂川・相模川に関心と利害を持つすべての主体の参加を得て行われるよう努力する。

1999 年 9 月 14 日策定

2005 年度の主な行事の概要



地域協議会の活動

桂川・東部地域協議会	4月3日環境学習会、4月17日総会、5月1日植樹体験（大月森づくり会協賛事業）、6月5日全国水質一斉調査、8月20日親子の川遊び体験教室、9月15日クリーンキャンペーン（上野原市鶴川）、3月18日クリーンキャンペーン（都留市夏狩）、3月26日きのこ植菌体験教室、通年 NOx 測定調査
相模川湘南地域協議会	4月24日 総会・シンポジウム「世界の水危機と日本の現状」、5月26日 鈴川河川改修現地見学会、5月29日 クリーンキャンペーン（相模川河口左岸）、6月5日 河川の水質調査、8月4日 上下流交流事業の下流事業への協力、9月1日 県環境科学センター見学学習会、11月5日 流域シンポジウムにパネル展示で参加、11月10日 Jパワー研究所公開学習会、バードマップ（06年夏刊行に向け編集中）



11月5日(土)
流域シンポジウム
神奈川県相模原市
(サン・エールさがみはらにて)



11月20日(日)
水源地観察会
(山梨県大月市にて)

10月

11月

12月

1月

2月

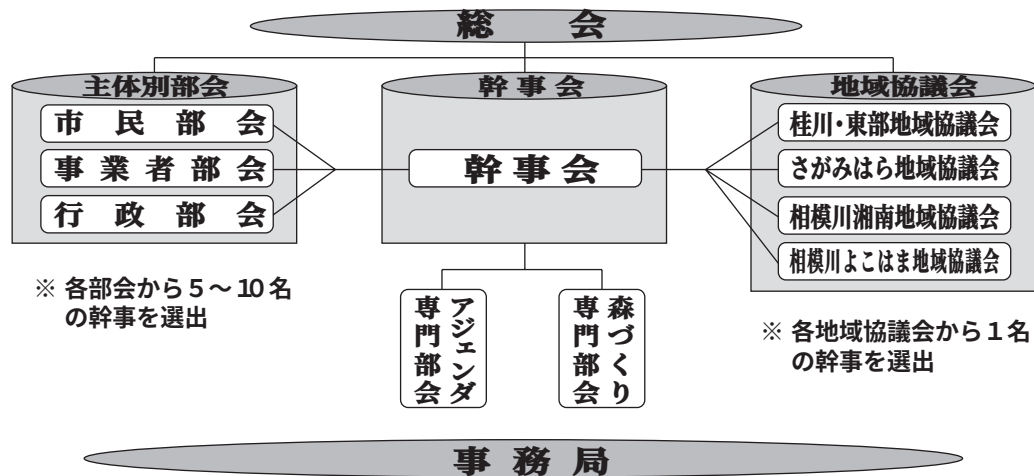
3月

10月1日(土)
上下流交流事業上流事業
(山梨県上野原市にて)

1月23日(月)
第25回 流域ツアー&ウォッチング
目久尻川(相模川支流)沿いを歩く

相模川よこはま地域協議会	6月5日 全国一斉水質調査(柏尾川)、6月26日 温暖化防止のためのエコツアー(山中湖、道志村)、9月25日 忍野村クリーンキャンペーンに参加、9月28日 横浜市西谷浄水場見学、11月20日 笹子の森・水源地観察会、12月18日 地球温暖化防止の集いに参加
さがみはら地域協議会	9月4日 水ガキ養成講座、10月16日 田んぼの稲刈り体験講座、9月～生ゴミ堆肥化試行調査

桂川・相模川流域協議会の組織



幹事会

市民、事業者、行政の3者間の協議を行うため、幹事会が設けられています。幹事会に参加する幹事は、3つの主体別部会及び地域協議会から選出され、それぞれの主体別部会や地域協議会の中で話し合われた内容を協議し、合意の形成を図ります。

専門部会

幹事会には、流域の環境保全に関して専門的な検討を行うため、必要に応じて専門部会を設置することができます。専門部会には、扱う専門的な課題に関係のある主体が参加し、必要に応じて専門家の出席・協力を求めることができます。専門部会での検討結果は、幹事会に報告されます。

監事

会計、事業に関して監査を行うために、各主体から監事を選出します。

主体別部会

桂川・相模川流域には、市民部会、事業者部会、行政部会の3つの主体別部会が設けられています。流域協議会の会員は、それぞれ該当する部会に参加することになります。

地域協議会

流域環境の保全を効果的に行うため、市町村や支川単位、またはいくつかの市町村にまたがって設置します。地域協議会の運営については、各地域協議会が定めることになっており、地域の実情にあわせた独自性のある運営が可能です。

1 総会・部会等の開催

(1) 会議開催状況

「アジェンダ 21 桂川・相模川」の推進、実行のための行動指針・行動計画の検討等を中心に、総会、幹事会、主体別部会（市民部会、事業者部会、行政部会）、専門部会等を開催しました。

ア 月別会議開催状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
総 会		1											1
幹 事 会	1	1		1		1	1		1		1	1	8
専 門 部 会	1	1		1		1	1	1		1	2		9
市民部会	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1	10
事業者部会	1											1	2
行政部会	1											1	2

イ 会議等の概要

○総会（5／21、ソレイユさがみ、40名） 1 講演 「市民参加の地域環境づくりー市民・事業者と行政の「川づくり」の試み」 法政大学社会学部教授 田中 充氏 2 議題 2004年度事業報告（案）及び収支決算（案）について 2005年度事業計画（案）及び予算（案）について 役員改選（案）について
○第1回幹事会（4／27、八王子市クリエイトホール、23名） ・2005年度流域協議会総会について ・2004年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・2005年度事業計画（案）・予算（案）、役員人事について
○第2回幹事会（5／21、ソレイユさがみ、22名） ・2004年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・2005年度事業計画（案）・予算（案）、役員改選（案）について ・市民交通費（案）について

○第3回幹事会（7／20、相模原市橋本公民館、23名） ・ホームページ運営事業・流域シンポジウムについて ・河川整備計画の説明会について ・各種シンポジウム、クリーンキャンペーン等への後援・協賛について
○第4回幹事会（9／14、八王子市クリエイトホール、14名） ・流域シンポジウム・上下流交流事業（上流側）について ・アジェンダ専門部会・森づくり関連事業について ・各種会議等への協賛について
○第5回幹事会（10／20、八王子市クリエイトホール、20名） ・流域シンポジウム・アジェンダ専門部会について ・水源地観察会・ホームページの更新について ・相模原市の清掃工場の改築について
○第6回幹事会（12／20、八王子市クリエイトホール、16名） ・アジェンダ専門部会の予定について ・2006年度事業計画と予算について
○第7回幹事会（2／16、サン・エールさがみはら、18名） ・2006年度定期総会について ・市民交通費について
○第8回幹事会（3／30、八王子市クリエイトホール、19名） ・2005年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・2006年度事業計画（案）・予算（案）、役員人事について
○第1回アジェンダ専門部会（4／27、八王子市クリエイトホール、31名） ・発電水利権の期間更新時における河川維持流量の確保について
○第2回アジェンダ専門部会（10／20、八王子市クリエイトホール、21名） ・相模川水系相模川上流（東部）圏域河川整備計画について ・マンション等のビル清掃時における合成洗剤について
○第3回アジェンダ専門部会（11／17、八王子市クリエイトホール、21名） ・東京電力（株）山梨支店の水利権更新にかかる説明会について
○第4回アジェンダ専門部会（2／2、八王子市クリエイトホール、29名） ・講演：環境アセスメントとミティゲーションについて（武蔵工業大学田中章助教授） ・神奈川県環境アセスメントについて
○第5回アジェンダ専門部会（2／16、サン・エールさがみはら、24名） ・かながわ水源環境保全・再生施策大綱及び実行5か年計画について

○第1回森づくり専門部会（5／12、八王子労政会館、19名） ・年度全体計画について ・見学会（岩手県紫波町）の提案について ・モデル事業の進め方について
○第2回森づくり専門部会（7／29、八王子市クリエイトホール、18名） ・見学会（岩手県紫波町）の報告について ・流域材の活用事例について
○第3回森づくり専門部会（9／14、八王子市クリエイトホール、17名） ・モデル事業の今後のスケジュールについて
○第4回森づくり専門部会（1／13、八王子市クリエイトホール、14名） ・森づくり専門部会が担う役割について ・家づくりモデル事業について
○第1回市民部会（4／2、相模湖交流センター、13名） ・環境基本計画改訂素案の説明と意見について ・河川整備計画に関する要望書について
○第2回市民部会（5／7、サン・エールさがみはら、12名） ・2005年度事業計画・予算案について ・河川整備基本方針・整備計画に関する要望書について
○第3回市民部会（6／4、相模湖交流センター、6名） ・2005年度流域シンポジウムについて ・洗剤対策事業について
○第4回市民部会（7／2、サン・エールさがみはら、14名） ・森づくり専門部会関連の事業、アジェンダ専門部会について ・上下流交流事業・流域シンポジウムについて
○第5回市民部会（9／3、サン・エールさがみはら、11名） ・アジェンダ専門部会 ・ツアー＆ウォッチングの候補について ・上下流交流事業・流域シンポジウムについて
○第6回市民部会（10／15、サン・エールさがみはら、10名） ・流域シンポジウムについて
○第7回市民部会（12／3、サン・エールさがみはら、14名） ・アジェンダ専門部会 ・ツアー＆ウォッチングについて ・2006年度からの環境調査事業「シジミ調査に替わって」について
○第8回市民部会（1／7、相模湖交流センター、11名） ・2006年度の事業計画について ・2006～2007年度の幹事、代表幹事、監事について

○第 9 回市民部会（2 / 4、相模湖交流センター、8 名） ・ 2006 年度の事業計画と予算について ・ 2006 ～ 2007 年度の役員人事について
○第 10 回市民部会（3 / 4、サン・エールさがみはら、11 名） ・ 2006 年度事業見積りについて ・ 2006 ～ 2007 年度の幹事について
○第 1 回事業者部会（4 / 19、八王子市クリエイトホール、17 名） ・ 2005 年度流域協議会総会について ・ 2004 年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・ 2005 年度事業計画（案）・予算（案）、役員人事について
○第 2 回事業者部会（3 / 23、八王子市クリエイトホール、13 名） ・ 2006 年度流域協議会総会について ・ 2005 年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・ 2006 年度事業計画（案）・予算（案）、役員人事について
○第 1 回行政部会（4 / 19、八王子市クリエイトホール、25 名） ・ 2005 年度流域協議会総会について ・ 2004 年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・ 2005 年度事業計画（案）・予算（案）、役員人事について
○第 2 回行政部会（3 / 23、八王子市クリエイトホール、16 名） ・ 2006 年度流域協議会総会について ・ 2005 年度事業報告（案）・決算報告（案）について ・ 2006 年度事業計画（案）・予算（案）、役員人事について

(2) 専門部会の開催

ア アジェンダ専門部会

5回も行いました

- ・第1回(2005.4.27):「桂川の水力発電所水利権の期間更新について(1)」(東京電力山梨支店)
- ・第2回(2005.10.20):「相模川水系 相模川上流(東部)圏域河川整備計画(山梨県治水課)」
- ・第3回(2005.11.17):「桂川の水力発電所水利権の期間更新について(2)」(東京電力山梨支店)
- ・第4回(2006.2.2):「アセスメント制度学習会」
- ・第5回(2006.2.16):「かながわ水源環境保全・再生施策」

アジェンダ専門部会は、流域協議会発足当時はアジェンダ21桂川・相模川の策定の場合として回を重ねていたのですが、1999年のある専門部会において、「枯れ川に清流戻る」との古い新聞切り抜きのコピーが配られました。1994年6月9日の毎日新聞でした。

「ダムや取水堰の下流の石ころだらけの枯れ川——。水力発電の発達した日本では見慣れた死の光景だが、今、枯れ川に清流を戻そうという動きが全国で進んでいる。清流復活作戦が始まるきっかけは、1988年に建設省(現国土交通省)と電力事業を管轄する通産省(現経済産業省)とが合意した河川維持流量確保に関するガイドライン」とありました。

この専門部会の中で、桂川水系の発電水利権の更新の日を確認。「前倒しで放流を」と迫ったこともあります。また当時の京浜工事事務所からはガイドラインの文書が提出され、「相模川・桂川の流況について」もまとめられてきています。

こうした中で、「アジェンダ21桂川・相模川」の第8章には「川に水を戻す」の所で、課題として「桂川における発電取水による水量の減少」、行動指針として「桂川・相模川の水量を豊かにし、河川環境を良くします」、行動計画としては「河川維持流量についての論議を進めます」と書き込ま

れていきました。

そうして今回の説明会でした。1回(4月)、3回(11月)と2回もたれたが、期間更新直前にやっと具体的な数字が出てくるのでは、何も検討のしようがありません。アジェンダ策定以後、これまで、河川維持流量についての論議は全くと言っていいほど進んでいません。提示された数字はガイドラインを一步も前に出ていませんでした。

と思いつつも、桂川に水が戻されていく大きな時代の流れに期待をよせ、また今後の期間更新が最大10年と大幅に短縮されることにも希望を託して、今後とも桂川のため頑張りましょう。

アジェンダ専門部会の2回目は、笹子川合流点下流部分の河川整備計画ができたということで、山梨県治水課より説明をうけました。

しかし、それは従来の河川工事実施計画でしかなく、しかも、葛野川の深城ダム建設と、笹子川での3ヶ所の河川改修工事の計画が全てであって、さらに深城ダムと笹子川の1ヶ所はこの計画以前に完成しているというものでした。桂川本流、そして大きな支流の鶴川などについての言及は皆無でした。

アジェンダ専門部会の4回目は「アセス制度について」、5回目は「神奈川県の水源環境保全・再生について」の学習会をもっています。

アセスメントについては、アメリカの制度(NEPA)と日本との違い、NEPAからミティゲーションへ至る道すじについて、武蔵工業大学の田中章助教授に話していただきました。

話を伺っていて気づいたのですが、魚道の設置とはミティゲーションそのものです。「次善の策」などと苦勞して言葉を搜していた時代は遠い昔になるでしょう。

5回目は、水源環境保全・再生についてはこれまでも何回も議論が行われてきていますが、動きが具体的になることも見据えていきましょう。

イ 森づくり専門部会

(報告者 倉橋満知子)

会議回数 4回

運営委員会 2回

視察研修 岩手県紫波町(1泊2日)

実践的森づくり専門部会として、2年間の流域材活用プロジェクトを組み、参加者も今までのメンバーに山の関係者や建築関係者、アドバイザーの佐川旭氏を加え、多種多様なメンバーで発足しました。

流域材活用の公共建築と民間建築の二本柱を推進目標に掲げ、
「流域材の家づくり」

「相模原市立環境情報センターの備品に流域材使用」
をモデル事業として推進することとしました。

推進するにあたり、アドバイザーの佐川旭氏が岩手県紫波町で手がけた循環型まちづくりによる、公共建築を自前の木材と職人で作りあげた実践例として、見学をすることになりました。

7月7日～8日の2日間、22名で研修に行きました。自己負担の費用を抑えるため、バスを利用した長旅となりました。早朝、大月と相模原で乗り合わせ、一路岩手県紫波町へと向かいました。途中の渋滞や雨による速度規制のため、大幅に予定時刻を過ぎ、見学コースを変更してもらった見学となりました。NPO法人紫波みらい研究所のお二人に案内されて、上平沢小学校と虹の保育園を見学しました。木の持つやわらかさ、香り、暖かさなどを実感し、随所にこどもたちへの配慮がなされた心遣いを目にすることができました。夜には建設に関わった高橋理事長さんから、裏話などを交えたお話を聞くことができました。2日目は町役場で循環型まちづくりの説明を受け、町長の強い意思と郷土愛によって成されていることと、「風土とは外から見て風を運ぶ風の人と、その土地に生まれ育った土の人とで出来上がっていく」という言葉が印象的でした。紫波中央駅舎を見学し、どこにでもあるコンクリートの建物だったら、誰も見にくる人はいないだろうと思いました。家畜ふん尿の処理については、これまで酪農家ごとで堆肥化していたが、堆肥化施設「えこさんセンター」に集約して堆肥化し、つくられた堆肥は100パーセント農家に供給されているとのこと。生産された農産物は産直センターで、年間数億の売上をあげているとのこと。確かに安くて新鮮、おいしい、納得のいく話でした。3万4千人の小さな山のまちが、ほんとうの豊かさにあふれて、来る人を心地よく迎えてくれる、価値のある研修でした。そしてまた、参加者の思いや意見を交流する場となり、推進の力となりました。

研修を終え、具体的に行動することとして、「相模原市立環境情報センターの備品に流域材使用」を要望し、受け入れを確認しました。「流域材の家づくり

について」は情報発信をするため、流域シンポジウムの森づくり分科会（リーダー：NPO緑のダム北相模 石村黄仁氏）で、東林業、鈴木直子氏（設計士）、中田無双氏（北都留森林組合）のお三方から現状報告を受け、流域材を活用すること、流通させるために森林行政が動くことを確認しました。

今年度はモデル事業の準備期間ということで活動してきましたが、相模原市立環境情報センターの流域材を使用した備品（机、椅子、書架他）が出来上がり、4月1日オープンに披露されます。これによって他の市町村に広がることを期待したいです。

家づくりは現在モデルになってくれる方が現れ、次年度から、見学会を含めた流域材使用の家として、情報発信していくことになりました。



2 上下流交流事業

(報告者 平塚市環境部環境政策課)

(1) 相模湾船上観察会・交流会

2005年8月4日(木)平塚市において今年度の上下流交流事業の下流事業が開催されました。

今回は、川と海はつながっていることを感じてもらいたいということをテーマに、海の観察会と交流会等が行われました。

今年も大勢の参加があり、山梨県側からは45名、神奈川県側からは58名、合わせて103名が参加しました。

午前中は5隻の遊漁船に分かれて乗船し、定置網や烏帽子岩の周辺、潮目などを観察しました。潮目ではごみが流れており、船の上から網ですくってみると、海草や川から流れてきたと思われる木の枝、人が捨てたと思われるビニール袋などがありました。午後は、今回参加した小学生の交流会と講演会がありました。交流会では、上流の鳥沢小学校と下流の柳島小学校の児童が、学校で行っている環境を保全する活動を紹介しました。

続いて講演会(浜口哲一平塚市博物館長、木幡孜元神奈川県淡水魚増殖試験場長)では、相模川の生きものについて、クイズを交えた紹介や相模湾の漁業問題と相模川のつながりについて話されました。

また、昼にはハーモニカとピアノの演奏会(片倉義人さん、広義さん)もあり、昼食を食べながら楽しい音楽を聞くことができました。

船上観察会の様子



〈参加した山梨県大月市立鳥沢小学校のみなさんの感想〉

私が一番楽しかったのは、流れもにくっついてたカニ、小さなイシダイみたいな魚にさわる事ができた事です。さわるというか、拾ったんですけど、カニや小さな魚にさわるのは初めてなので、とてもいい体験になりました。小さな魚はどれも、とてもかわいかったです。(芝田 藍嘉さん)

交流会の様子



私は、船に乗ったことはありますが、遊らん船で、漁船には乗ったことがなく、貴重な体験をさせていただいたうえ、海の大切さ、海をきれいに守っていかなければならないことを改めて心に感じられました。

(天野 杏菜さん)

海の上にかんでる藻をあみですくってみると、藻の中に小さな魚がたくさんいました。小さな魚の住みかになっている、ということを知って私は、なぜ藻の中に住んでいるのだろうと思いました。

(森屋 梨香さん)

流れてくるものの中に小さな、魚やかにかが入っているのをみて、びっくりしました。相模川交流会へいったつぎの日ぐらいに家族で海にいて、流れてくるものをさがしてみました。また、あの魚やかにかがみれたらいいなど、思ったのですが、けっきょくみれませんでした。

また、こういう会があったら、参加したいです。

(佐々木 麻衣さん)

漁船では、名前は忘れたけど、海の波浪をはかるたてものをみたり、有名ないわを見たりした。

交流会では、自分たちの学校に「こんなところがある」について発表しました。鳥沢小からは、ジオトープについて発表しました。他の学校からもこんなところがあることをきいて、こんなところもあるんだなと思いました。

(佐藤 勇貴さん)

波浪等観測塔



烏帽子岩



(2) 行ってみよう！森の中へ
～ 間伐体験&森のコンサート ～
(報告者 北都留森林組合 中田無双)

2005年10月1日(土)山梨県上野原市にある上野原小学校の学校林「八重山」に神奈川・山梨両県から多くの方々が参加しました。

今回の上流事業は、①間伐体験、②森林散策、③森のコンサート(オマタツロウ夫妻による笛等の演奏)を用意しました。

- ① 間伐体験では、森林整備のひとつ、ヒノキ人工林の間伐(間引き)を実際に行いました。森づくりの大切さ、森林生態系、林業問題などを説明し、間伐後、太陽の光が林床へ届き、参加者の笑顔と素敵な汗がキラキラ輝いていました。
- ② 森林散策では、学校林の中を実際に歩きながら子供たちの森づくりや環境学習方法などを説明しました。山頂付近からみた富士山の眺めがとてもきれいで、キノコやアケビなど森の恵みの多さに参加者も大喜びでした。
- ③ 森のコンサートでは、森の中での音楽会を楽しみました。笛の音色に鳥たちも一緒にさえずり、とても癒され、木洩れ日の中、森の気持ちよさを体感したと思います。



間伐体験の様子

〈参加者の感想〉

森のコンサートで、竹や木の実の楽っきのえんそうを聞いて気持ちがとってもやさしくなりました。いっぱいれんしゅうして何でも吹けるようになったんだって。私もいっぱい練習したら吹けるようになるのかなあ。私は、

どんぐりぶえしか知らなかったなので、いろいろな木の実でちょうせんしてみようと思いました。妹といっしょに木を切った間ばつ体けんや高いところまでのぼることができた木のぼり体けんもすごく楽しかったです。また、行きたいです。(大村 知聖さん 7歳)



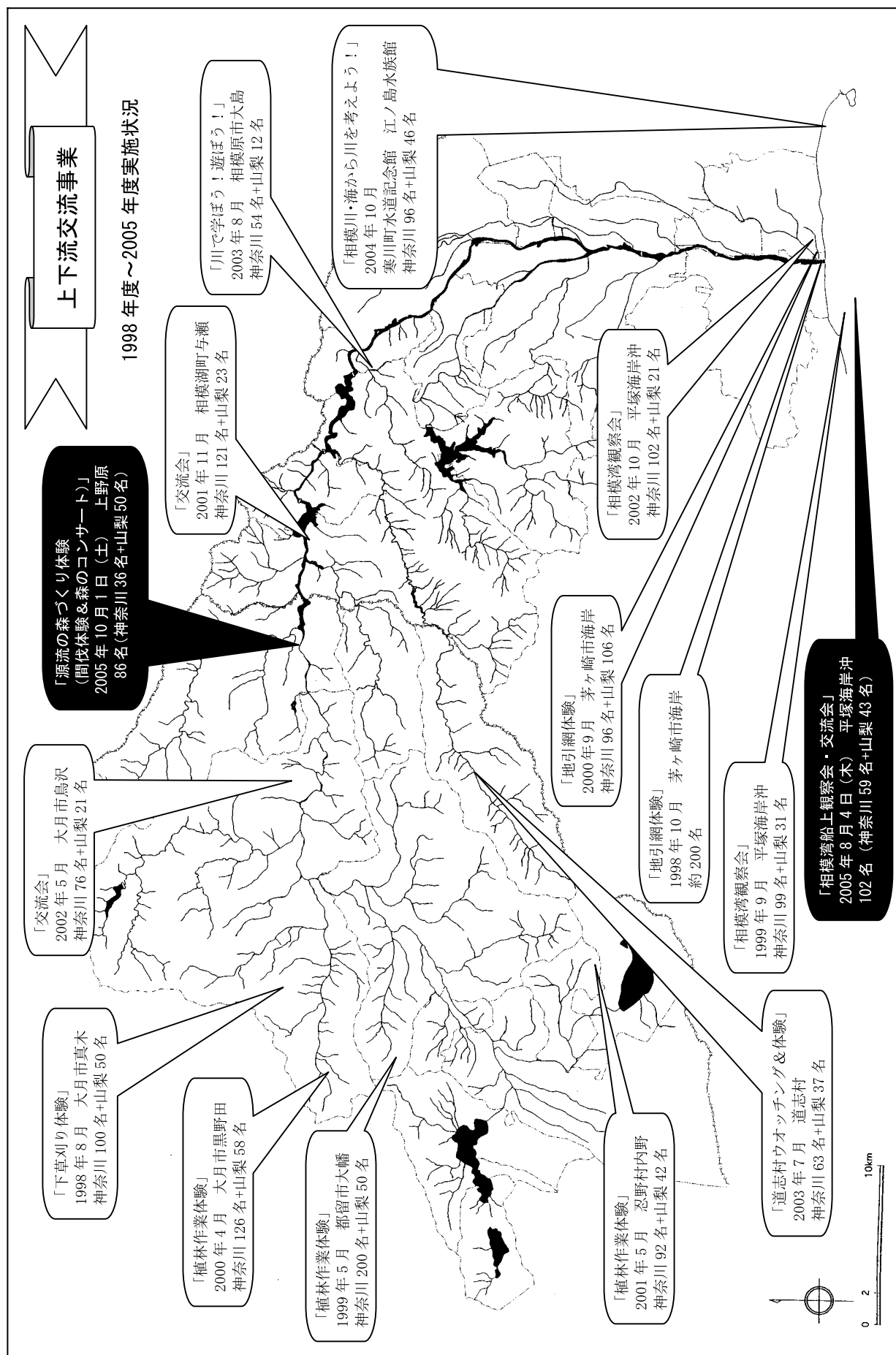
木登り体験の様子

今回の交流事業では、親子ともども自然を満喫することができました。3歳の娘が大人に混じって、細い山道を初めて上り下りして、歩き通したことは驚きでした。一言もわがままを言いませんでした。5歳の息子は、一休みしたときに、どんぐりを含めて色とりどりの実を見つけては、周りの大人から説明を受けて、楽しそうでした。森のコンサートでは知り合った子ども達と仲良く腰掛けて、顔を見合わせながら真剣に聞いていて、ほほえましく感じました。また、のこぎりを使って、木を切り倒したことは、通常の生活からはありえないことで、貴重な体験だったと思いました。

(3歳の娘、5歳の息子を連れて参加した川崎市在住の永積優子さん)



森のコンサート
演奏者 オマタツロウ氏



3 桂川・相模川流域シンポジウム ～ 桂川・相模川の未来を創ろう ～

(報告者 実行委員長 倉橋 満知子)

(1) はじめに

○開催日 2005 年 11 月 5 日

○開催場所 サン・エールさがみはら

桂川・相模川流域協議会が設立の準備期間から始まって 10 年の歳月が流れたが、流域の環境はどう変わったのだろうか。市民、事業者、行政の三者で 100 を超える流域のアジェンダを策定し、アジェンダの実施、行動をする間に、地球規模で迫ってくる環境の危機が、われわれの意思とは関係なく、環境への視点に向いてきたのではないだろうか。

そのような中で、利害関係が相反する三者が合意のもとで環境保全を行動していくという前例のない協議会のなかで、手探りをしながら、「清く豊かに川は流れる」の理念に邁進してきた。

河川法が改正され、コンクリート護岸の排除、住民、市民の意見反映、河畔林の復元と、市民が努力に努力を重ねて言い続けても難しかったことが可能になり、反映されることになったが、果たして桂川・相模川の水質、生き物たちにどれほど良い影響がでているだろうか。流域の生活の負荷が軽減されているのだろうか。流域協議会は、何ができたのだろうか。

これらを検証して桂川・相模川の未来を語り合い、次へと行動し実践することを、「森づくり」、「生き物との共生」、「ごみ問題」、「水質」の分科会で、それぞれ提言をし、確認し合う場となった。



全体会の様子

(2) 開催の趣旨

桂川・相模川流域の市民、事業者、行政が連携して平成10年に「桂川・相模川流域協議会」を設立し、流域の環境保全を図るための行動計画「アジェンダ21 桂川・相模川」を策定、推進してきました。

協議会では、広く流域に関わる皆様とともに情報交換や交流を深めながら、環境保全活動の輪を広げるために『流域シンポジウム』を開催するもので、今日に至るまで、県境を越え、市民・事業者・行政の各関係者が連携して、企画や準備をおこなってきました。

今年は、平成7年の設立準備段階から数えて10年目にあたるという区切りの年でもあるため、「桂川・相模川の未来」に注目し、今までの活動を振り返るとともに、未来を語るシンポジウムを開催しました。

(3) 当日のプログラム

(午前の部)

10:30 主催者開会あいさつ 倉橋満知子（桂川・相模川流域協議会代表幹事）

来賓あいさつ 岩本和紀（相模原市環境保全部長）

10:40 神奈川県・山梨県知事メッセージ

10:50 10年を振り返って

「桂川・相模川流域協議会の検証」

石田 幸彦（桂川・相模川流域協議会監事）

「相模川の生き物たちの環境から」

勝呂 尚之（神奈川県水産技術センター内水面試験場）

コーディネーター

岸川 敏朗（桂川・相模川流域協議会市民部会員）

12:00～13:30 《昼 食》、パネル展示会



パネル展示の様子

(午後の部)

13:30 分科会 (次の4つの分科会に分散して実施しました。)

○森づくり リーダー 石村 黄仁 (NPO法人緑のダム北相模)

(2階第1研修室) 発表者 鈴木 直子 (建築設計士)

発表者 吉岡 幹敏 (吉岡木材)

発表者 中田 無双 (北都留森林組合)

発表者 河野 東 (東林業)

○生き物 リーダー 勝呂 尚之 (神奈川県内水面試験場)

(3階第2会議室) 発表者 加地 弘一 (山梨県水産技術センター)

○水質 リーダー 関 礼子 (立教大学助教授)

(2階第2研修室) 発表者 田嶋 龍司 (清掃業)

発表者 黒木 昭文 (造園業)

発表者 坂下 栄 (元三重大学医学部教官、元生活クラブ生協検査室長、環境科学調査オフィス主宰)

○ごみ リーダー 川嶋 庸子 (NPO法人アリスセンター)

(3階第1会議室) 発表者 渡邊 茂 (東京電力大月支社)

発表者 市村 里江 (さがみはらごみ連絡会)

発表者 長田 尚丸 (忍野村観光課)

発表者 清水 久子 (真木処分場問題を考える会)

各分科会の発表者発表後、フロアー討議

15:30 全体会 各分科会からの報告、まとめ

16:00 主催者閉会あいさつ

河西 悦子 (桂川・相模川流域協議会代表幹事)

(4) 分科会概要

ア 森づくり分科会

(報告者 関 正貴)

森づくり分科会では石村黄仁氏 (NPO法人緑のダム北相模) がリーダーとなり、「水源林の危機を救う、流域材の活用法とは」というテーマで進められました。

分科会会場には多くの方々の参加があり、流域の森林管理に向けた材の活用

法として建築材としての活用や机・椅子などへの活用が挙げられました。

結果として、この森づくり分科会では、これらを流域材として位置づけ、例えば造林・伐採・製材・加工・建築といったサイクルを、桂川・相模川流域内で、山梨県、神奈川県行政の枠を超えて各段階の関係者と協力し積極的に推進していくことになりました。

イ 生き物分科会

(報告者 天内康夫)

相模川中流域の水生昆虫、魚貝などが展示された会場では、神奈川県水産技術センター内水面試験場の勝呂尚之さん、山梨県水産技術センター加地弘一さんのアドバイスのもとに、活発な意見交換が行われた。

「川の環境を、地域ごとに選定した指標種（たとえばアユカケ）で評価してみよう」、「湧水、伏流水のマップを作成しよう」などなど。ほかに「生きものが上り下りできない魚道や砂防堰堤等の実態を、ツアー＆ウォッチングで是非見てみよう」、「ナマズなどがコンクリート水路から田んぼに出入りするための特設魚道を設けたい」、「流域各地のアユを食べ比べてみよう」といったユニークな提案も出て、時間がまだまだ足りない分科会であった。



生き物分科会の様子

ウ 水質分科会

(報告者 田嶋龍司)

まず私が、相模原市内からマンション清掃に使用された洗剤が月にドラム缶にして約 650 缶、建物全体からは約 8000 缶排出され、このうち約 2100 缶が直接河川に流入していると、業務用洗剤の実態を示し、また、相模原市の施設において子どもの誤飲事件も起きており、利用弱者保護の視点から清掃委託をという提案をしました。

坂下氏からは、合成界面活性剤の内臓および胎児への影響、精子への影響、水生生物への毒性が明らかにされ、これに対し、石鹼は自然界の循環に組み込まれているとの解説がなされました。

黒木氏からは、緑地管理にプロの植木屋は有機リン系の強力な薬剤を使用しているが、害虫に耐性ができて悪循環となり、雨が降れば河川に流入するが、

農業を使用しない緑地管理も可能との話がありました。

最後に、これらを現状認識で終わらせず、今後改善に取り組んでいくとの方向性が確認されました。

エ ごみ分科会

(報告者 市村里江)

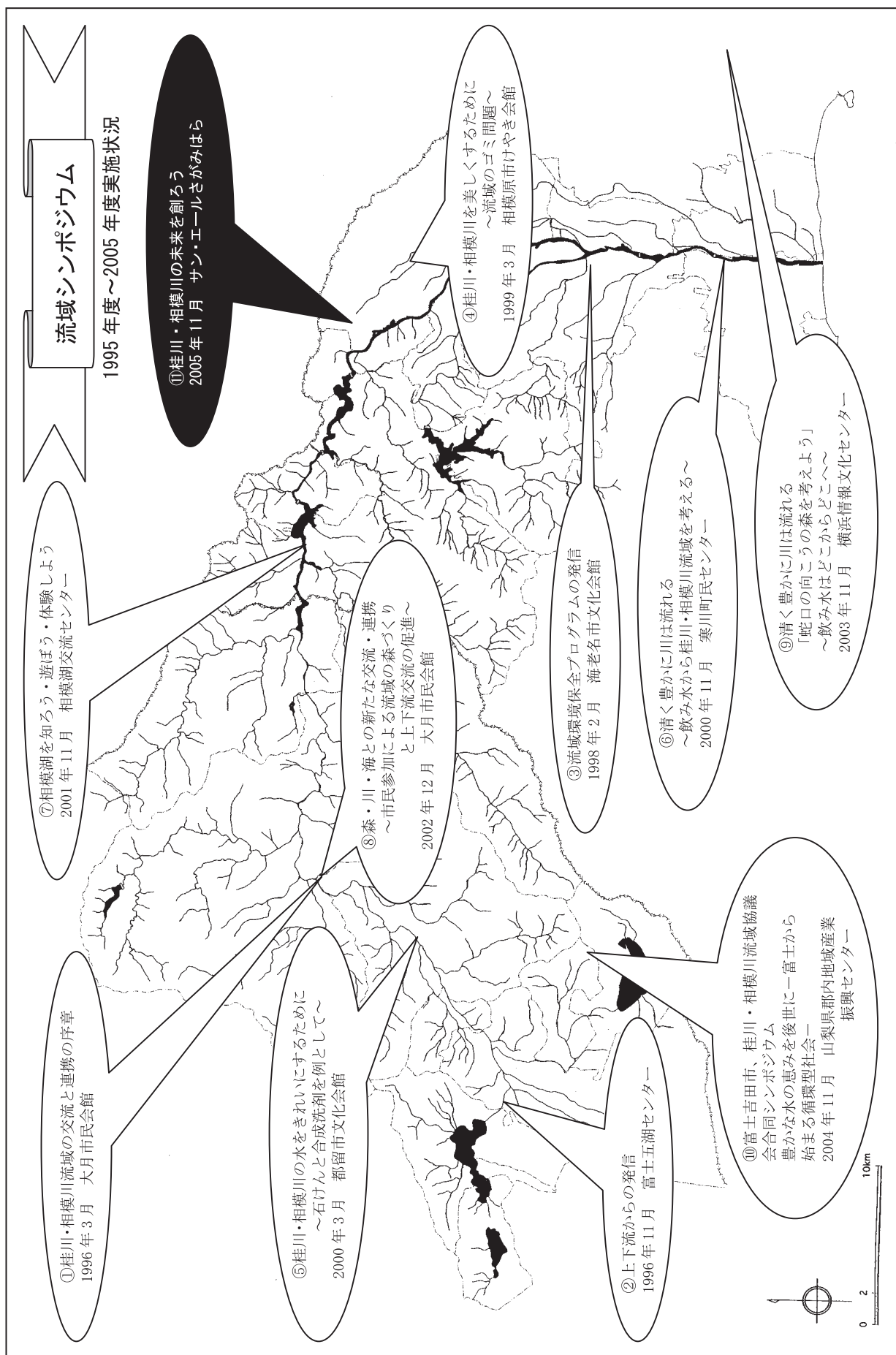
ごみ分科会の発表は、次の4名でした。まず忍野村観光課職員から、きれいな上流の水環境を維持していく町の現状と取組み、事業者である東京電力山梨支店大月支社からは、流域やダムのごみは年々減っているのに、取り払う費用は逆に増えているとのこと。ここでも環境悪化が蓄積されている思いでした。山梨県の「真木処分場を考える会」の、処分場建設を阻止した活動の報告。そして神奈川県「ごみ問題を考える市民連絡会」を代表して、私が産廃工場の再稼動を止めた経過や、相模原市の日本一のガス化溶融炉建設という清掃工場建替の話をしました。

4者ともそれぞれ違った立場からの話でしたが、それぞれの視点からの質問や意見が会場全体で活発に交わされました。

山や川や流域周辺のみならず、あらゆるごみの問題は、ごみを出す私たち一人一人の問題でもあります。行政、事業者、市民がそれぞれ真剣にごみを出さない社会を考えていかねばなりません。今を生きる私たちは、子や孫たちへ良い社会を、良い地球を伝える義務があります。このような集まりを通してより多くの人達とその思いを共有し、伝えていくのが大切な事と、この日改めて実感しました。



参加者の人たち



4 環境調査事業

(1) シジミ類共同調査

(報告者 園原哲司 (向上高等学校生物部顧問)、宮野貴・多賀照子 (市民部会))

ア はじめに

環境調査事業としてこれまでにコイのメス化調査、ホタルの生息調査を実施してきたが、2004年度、2005年度は神奈川県伊勢原市にある私立向上高校生物部と共同して桂川・相模川のシジミ類調査を実施した。

イ 調査の経緯

外来種が問題になっている昨今、向上高校生物部による相模川水系のシジミ調査報告書に接し、外来種のタイワンシジミの生息拡大に驚くとともに、在来種のマシジミが絶滅の危機に瀕していることを知った。インターネットで検索すると、他の河川でも日本産らしくないシジミが報告されていた。魚介類の卸売市場に問い合わせると、最近ではシジミの約48%が外国からの輸入であるという。そのようなことから、水源である山中湖から河口までの桂川・相模川全域にわたり体系的にシジミ類の分布調査を行うこととした。

なお、タイワンシジミらしいものはそれまでに他の場所でも見かけており、汚れた泥のある所に生息していたことから、マシジミとタイワンシジミの生息条件を知る一助にもなればと考え、併せて水質調査も行った。

ウ 調査の実施

2004年度は5日間かけて14地点を調査し、2005年度は5日間で13地点の調査を実施した。調査地点を図-1に、データは表-1にまとめた。

調査手法はスコップ、網、ザルを用いて底砂、底泥から貝類を採取し、同定した。山中湖の調査ではボートを借り、エクマンバージ採泥器を用いて湖底の調査も行った。水質調査にはpHメーター、電気伝導度計を使用し、COD、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、リン酸態リンについてはパックテストを用いたが、一部デジタルパックテストも使用した。さらに2005年度は水質の指標となる指標生物も記録した。



写真-1 マメシジミを採取した農業用水路



写真-2 同定・記録作業の様子

エ タイワンシジミとは

タイワンシジミ *Corbicula fluminea* はシジミ科の一種で、台湾、中国をはじめ東アジア各地の淡水域に分布している。タイワンシジミは日本産マシジミ *Corbicula leana* と形態上大変類似しており、遺伝的にも極めて近い。この仲間は単為生殖、雄性発生で繁殖しているため、マシジミが独立種なのかという疑問が残り、レッドリストの対象外とされている。

タイワンシジミは殻表面や殻内面の形態、色彩が変化に富んでおり、多くの色斑型がある。殻表面が黄褐色、殻内面が白色ないし白紫色で両側歯が紫彩されているものはカネツケシジミと呼ばれるもので、判別は比較的容易である。一方、殻表面がオリーブ色、殻内面が一面紫色であるものは、殻の形態、色からはマシジミによく似ているものもあり、専門家でも同定の困難なものが少なくない。在来種であるマシジミは、殻表面が稚貝のうちは黄緑色で、老成すると黒色を帯び、一般に光沢は鈍く殻頂部は剥落して灰白色が露出する。殻内面は中心部が白色ないし白紫色、周辺部が濃紫色である。なおシジミ類の同定については姫路市立水族館増田修氏に依頼した。



写真-3
タイワンシジミ（左・中央）
マシジミ（右）

オ 調査結果

向上高校生物部の調査の結果、神奈川県内の相模川水系及び金目川水系全域の122ヶ所の調査地点のうち、58ヶ所でタイワンシジミの生息が確認されている。在来種のマシジミが生息していたのは厚木市および城山町の2ヶ所のみであった。タイワンシジミが相模川の両岸全域で分布を拡大する一方、マシジミは調査地域の河川や水路では絶滅に近い状況であることが判明した。さらに、2004年度から開始された桂川・相模川流域協議会と向上高校生物部の共同調査の結果（図-1および表-1参照）、山梨県内桂川流域ではシジミ類の生息はきわめて少ないことが判明した。山中湖、河口湖では、タイワンシジミの生息を確認したが、桂川流域におけるタイワンシジミの生息確認としては、最も早いもののひとつであろう。今後、タイワンシジミが下流域に分布を広げるか、注意深く見守る必要がある。また、都留市夏狩地区、大月市賑岡地区では、マシジミの生息を確認することができた。なお、上記調査を総括した分布図は、紙面の関係上、別刷りに掲載した。

カ 考察 タイワンシジミ分布拡大の経緯

一連の調査で、次のことが判明した。

- (ア) 何らかの理由で相模川に侵入したタイワンシジミが西部用水路、左岸用水路など主要な用水路に入り込み、そこで繁殖した。さらに、小さな水路や水田を通して下流の各河川に侵入し、繁殖した。
- (イ) ホタルの幼虫やカワニナと共にタイワンシジミが放流されていた。
- (ウ) 自然保護活動をしているボランティアの方が、外来種とは知らずにタイワンシジミを広範囲に放流していた。

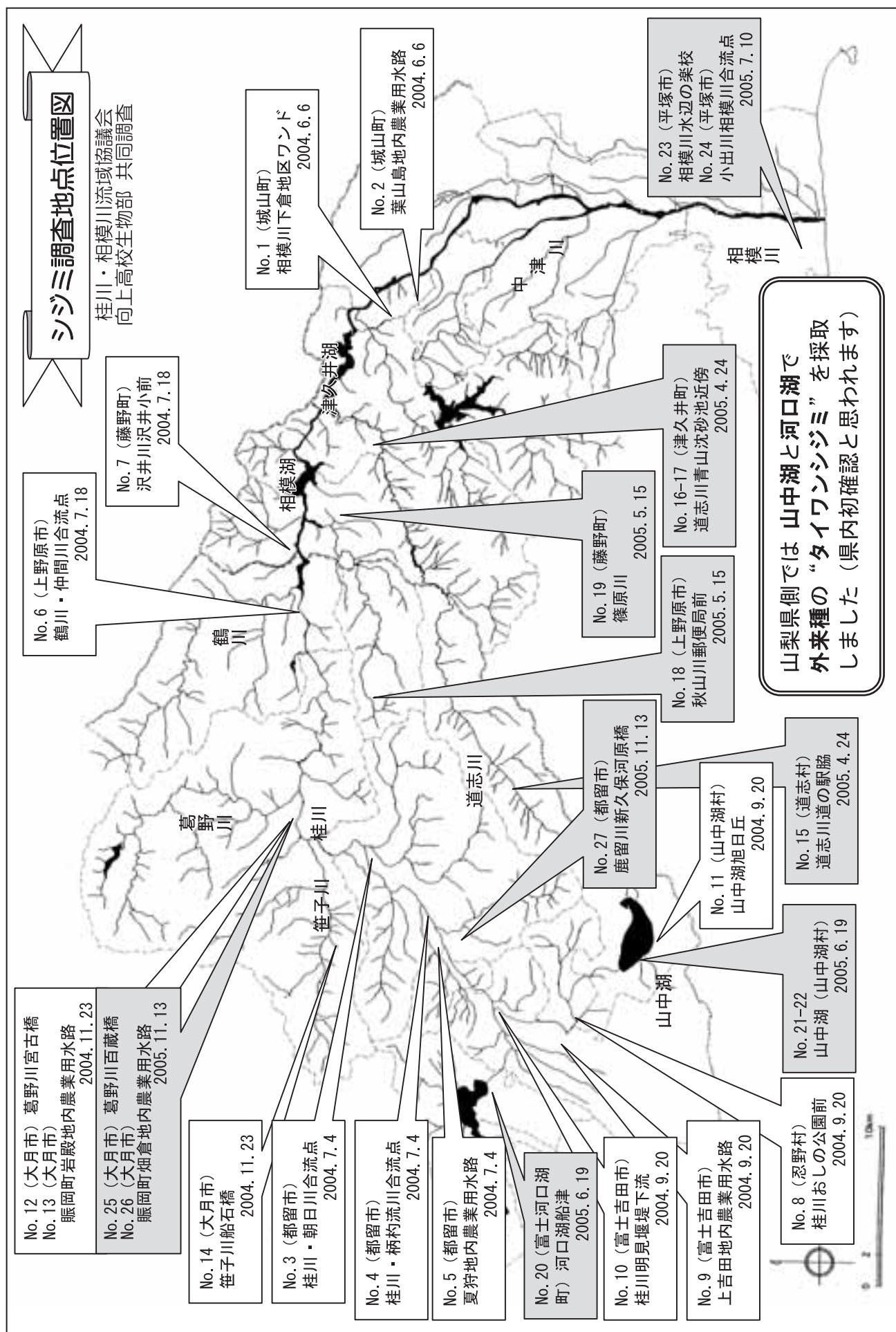


表-1 桂川・相模川流域 シジミ類調査結果一覧表

年度		2004年度														2005年度																						
調査回		第2回調査				第3回調査				第4回調査				第5回調査				第6回調査				第7回調査				第8回調査				第9回調査				第10回調査				
地点No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27											
地点名	下倉地区 ワンド	小倉	桂川・朝日川合流点	桂川・柄杓流川合流点	夏狩	鶴川・ 仲間川合流点	沢井小 前	おしの公 園前	上吉田地 内	明島堤 下流	旭日丘	宮古橋	鹿岡町 岩殿	船石橋	道の駅ど うし麓	青山沈殿 池下	青山沈殿 池横	秋山郵便 局前	徳原	河口湖 船津	山中湖南 岸重良瀬	山中湖北 岸中ノ原	馬入水辺の 茶屋	相模川合流 点	百蔵橋	鹿岡町 畑倉	新久保河 原橋											
河川名	相模川	相模川	桂川 右岸清水	桂川 橋内溜川	桂川 左岸清水	鶴川	仲間川	沢井川	農業用水路	桂川	山中湖	葛野川	農業用水路	荳子川	道志川	道志川	道志川	秋山川	篠原川	河口湖	山中湖	山中湖	黒車井戸こ よる水路	小出川	農業用水路	鹿留川												
市町村名	城山町	城山町	都留市	都留市	都留市	上野原市	藤野町	忍野村	富士吉田市	富士吉田市	山中湖村	大月市	大月市	大月市	道志村	津久井町	津久井町	上野原市	藤野町	富士河口湖町	山中湖村	山中湖村	平塚市	平塚市	大月市	大月市	都留市											
調査日	6.6		7.4				7.18				9.2				11.23				4.24				5.15				6.19				7.10				11.13			
天候	雨	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	曇りの雨	晴れは曇り	曇り	曇り	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ											
前日の天候																		晴れ	晴れ	曇り	曇り	曇り	雨	雨	曇り	曇り												
気温 (℃)			28.6						25.5	24.3	16	15	14.5	19	17	16	19	16	19	—	24	21.5	29	30	—	—												
水温 (℃)			18.8	19.0	14.9	19.1	19.2	14.2	17.6	13.4	10.5	11	12	16	15	14	14	14	14	—	23.5	24	17	25	12	—	12											
濁り																																						
色調																																						
臭気																																						
流水幅 (m)			12	5	—	15	8	—	1.5	10	10	7	10	20	20	20	20	4	3	—	—	—	—	30	20	0.3	5											
排水場所の水深 (cm)			40	30	—	70	40	—	50	30	30	40	30	20	20	20	25	20	10	—	100	10	—	20	30	—	30											
底質									礫	砂、礫	礫	大礫、砂	泥	巨礫、砂	礫、砂利、砂	玉砂利、砂	玉砂利、大礫、砂利、泥	砂利、泥	砂、礫	—	細砂	砂	—	泥、砂	大礫、小礫	泥	岩、小礫											
電気伝導度 (μS/cm)			169	137	161	136	173	237	141	131	131	79	96	91	112.5	148.5	—	108	111	535	982	—	泥、砂	大礫、小礫	泥	岩、小礫												
pH			7.9	8.6	7.2	7.9	7.3		7.8	7.6	7.6	5.5	6.0	7.83	8.40	8.22	7.11	8.2	8.4	7.55	7.36	—	—	—	—	—												
COD (mgO/l)			6	6	1	1	0		<1	5	4	2	1	2	6	3	4	4	4	—	5	6	3~4	8	4~8	—	1											
NH ₄ -N (mg/l)			0.64	0.08	0.16	0.16	0.4	<0.1	0.16	<0.1	0.16	<0.16	<0.16	<0.16	<0.16	<0.16	<0.16	<0.16	<0.16	—	<0.16	0.16	0.3	0.6	0.16	—	<0.16											
NO ₃ -N (mg/l)			0.009	0.009		ND	0.006	ND	0.006	ND	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	—	0.010	0.010	0.010	0.105	0.006	—	<0.006											
NO ₃ -N (mg/l)			1.84	1.84		0.23	0.32	0.46	0.23	0.46		0.46	0.23	<0.23	<0.23	<0.23	0.69	0.92	0.2	—	0.2	0.2	3.69 ~ 0.92	3.45	1.15	—	0.69											
PO ₄ 3 ⁻ -P (mg/l)			0.132	0.099		0.066	0.033	0.066	0.066	0.132		<0.0165	<0.0165	<0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	—	0.026	0.026	0.165	0.132	0.0165	—	0.0165											
シジミ類	マシジミ タイワン シジミ						マシジミ シジミ殻 (種不明)		マシジミ シジミ殻 (種不明)	セサジミ 殻 タイワン シジミ										タイワンシ ジミ	タイワンシ ジミ	タイワンシ ジミ	タイワンシ ジミの殻															
シジミ以外の貝類	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ		カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	カワニナ モアラガイ ハナエモアラガイ	サカマキガイ サカマキガイ	チリメン カワニナ殻	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ	カワニナ サカマキガイ											
指標生物																																						

(エ) 漁協の放流事業によって、タイワンシジミが分布を拡大している可能性がある。

(オ) かつて相模川の周辺に生息したシジミの標本が博物館等に残されていない。

ここで特に問題なのは、ホタル放流といった自然保護活動や、漁協等の放流事業に伴って、外来種であることが認識されることなく、タイワンシジミが分布を全国的に拡大していることである。タイワンシジミばかりでなく、いままで広く行われてきた生息水系外への生物の放流は、原則的に控えるべきである。特に、外来種の分布拡大には特に注意を払わなければならない。『生物多様性』という言葉をよく耳にする。生息する生物の種類が多ければ、多様性が高いように考えがちであるが、他の地域から生物を持ち込んで種数を増やしても、それはその地域の独自性を損ない、他地域との均一化になるだけで、かえって生物多様性を低下させることになる。大切なのは生態系のバランス、地域の独自性だということが少しずつ分かってきた。オオタカがいれば自然が豊かなのではなく、オオタカの生息を支える動植物を含め、自然環境全体が『本来あるべき生態系のバランス』をもつとき、はじめて豊かな自然といえるのである。

分布がこれほど拡大しても、その存在は気づかれることが少ないタイワンシジミである。しかし、この小さなシジミを通じて、私たちの周りの自然環境が今どうなっているか、本来どうあるべきか、私たちが自然環境の保全にどう関わっていくべきか、そうしたことを考えることができた。人間が壊している生態系のバランスを、多くの外来生物が映し出している。ブラックバス、ブルーギル、さらにタイワンシジミの全国的な分布拡大は、外来種問題の身近さと深刻さを、厳しく私たちに問いかけている。

キ おわりに

今後は各地域の自然保護活動団体にも広く情報発信し、連携を進めていきたい。環境事業としてのシジミ類調査は終了したが、本当に大切な活動はこれからなのかもしれない。

《私たちの提案》

1. DNA分析をはじめ、マシジミ、タイワンシジミ種群の分類を確定するための研究を促進させよう。
2. マシジミ、タイワンシジミ種群の全国的な分布情報の収集を進めよう。
3. マシジミを絶滅危惧種に指定し、生息地にタイワンシジミ種群の侵入を防ぐなど、必要な保護措置を講じよう。
4. ホタル生息地をはじめ、自然保護活動をしているフィールドで、どんな外来種が侵入しているのか、全国的な調査を至急実施しよう。

最後に本研究を進めるにあたり、姫路市立水族館増田修氏、神奈川県環境科学センター野崎隆夫氏、神奈川県水産技術センター内水面試験場勝呂尚之氏をはじめ、多くの研究者のご教示を受けた。また、多くの地元の方々に貴重な情報を提供頂いた。ここに深く感謝いたします。

シジミ類調査 参加者の声

相模川の河口に近い水辺の楽校付近では、大型のタイワンシジミに出会えた。この一帯は川といっても潮の満ち干で海水が届く、いわば汽水域に当たると思うが、こんな場所にまで淡水シジミがいるとは意外であった。タイワンシジミの世界制覇には、広い環境適応性があったからだろうか。

また山中湖では、小型のタイワンシジミこそ見かけたが、放流したというセタシジミ生息の痕跡は私には確認できなかった。琵琶湖とは大きく異なる水温差で、果たしてセタシジミが繁殖にまでこぎつけられるものだろうか、無駄な努力なのでは……の思いを禁じえなかった。

(天内康夫)

この2年間のシジミ調査の手始めに、神奈川県山町、相模川右岸下倉川合流点地先にある池に皆を案内したのはあいにくの雨の日でした。

ここには冬場かならず大きなシジミの殻が干からびて散乱していることを、ゲンゴロウ類採集の折に見て知っていました。

結果は生きたマシジミを相模川本流で唯一確認できた地点として、今後とも大切に見守っていきたいとは考えていますが、タイワンシジミも多数確認しており、時間の問題かとも…。

(小西一郎)

シジミ調査と「水と生き物を守る会」

帝京科学大学の環境科学科に在学する学生の多くは、自然環境の保全に高い関心を寄せています。カリキュラムとしての野外実験で、河川の水質調査や植物の生態観察など、実際フィールドに出て自然を調査する機会には恵まれています。真に自然環境保全を経験として学習するためには地域の抱える具体的な問題に対処して、それを解決するというプロセスを経ることが大切と考えております。

そのような背景のもと、地域の自然保全を目的とした自主活動団体が複数立ち上がっており、その一つに「水と生き物を守る会」があります。本会は山梨県東部河川域の自然保全を目的として、およそ2年前に結成され、現在、総数40名からなる団体となっています。会員は環境科学科の学生が主で全学年にわたっていますが、前期は4年生、後期は3年生がリーダーシップをとって活動しています。

結成当初、地域環境の情報の入手に困難がありましたが、相模川・桂川流域協議会に参加することで生きた情報を得ることができるようになりました。また、流域協議会の行っている活動に参加協力する形で地域連携を図っていくことも、本会の活動に加えることになりました。その一つに山梨県内河川のシジミの調査がありました。シジミの調査は2年間にわたり東部山梨の桂川流域について、1年に数回の調査が実施されました。学生数人が主に活動しましたが、私もできるだけ参加するように努めました。生きたシジミの採取は困難でしたが、2、3箇所でタイワンシジミを中心とした貝殻を見出すなどの成果がありました。このことは相模川上流域ではシジミが繁殖しにくいことを示唆していると思われます。

シジミの調査を通して、具体的な生物と環境保全の関わりを学びながら山梨の自然環境の実情を直接知る貴重な機会となり、参加した学生にとって教育的な意義は大変に大きいと確信しています。また、地域の環境保全に真摯に取り組んでおられる多くの協議会のメンバーと知り合えたことに感謝しております。水と生き物を守る会は、“ホタル生息地の自然環境調査”や“鶴川の指標生物と水質調査”など、自主的な活動に加え、今後も相模川・桂川流域協議会と連携を保ち、流域の自然環境保全に些少なりとも貢献できればと願っております。

(帝京科学大学 環境科学科 教授 落合鍾一 (水と生き物を守る会顧問))

◆お礼◆

この調査は、向上高校生物部の園原哲司先生、生徒の皆さんに多くのご指導をいただきながら進めて参りました。本当にありがとうございました。

(桂川・相模川流域協議会 担当者一同)

(2) 身近な水環境全国一斉調査

(報告者 宮野 貴 (市民部会))

ア はじめに

本調査は環境調査事業のひとつとして、今年度初めて取り組んだもので、全国一斉に行われた「第2回身近な水環境の全国一斉調査」に参加する形で実施したものである。この全国調査は昨年度から始められ、2年度目の今年、全国で約5,000地点にて調査が行われ、流域協議会では、桂川・相模川流域を中心に約80人が参加し、141地点で調査を実施した。なお、この調査の特徴は、調査者自らが調査地点を決めることにある。調査の前から既に行動は始まっていたのである。

イ 調査の概要

調査は、全国統一の調査項目であるCOD（化学的酸素要求量）、および、流域協議会独自の調査項目である4種類（アンモニウム、亜硝酸、硝酸、りん酸）を測定した（表－1、2参照）。また、ごみの有無、濁り等、水辺の状況について判る範囲で観察した。

調査手法は、その場で測定結果がわかる「パックテスト」と呼ばれる簡易測定法を用い、試薬の入ったチューブに採取した水を入れ、色の変化を読み取ったものである（写真－1参照）。CODは同一地点で3回測定し、その他の4項目は各1回測定した。

調査は、全国一斉調査日である6月5日（世界環境デーに近い日曜日）に実施することを原則としたが、調査者の都合で別の日程でも良いこととした。

ウ 調査結果の概要

各調査地点の測定値については紙面の都合で割愛するが、各地点のCODを3段階に区分したものを図－1に、また、流域内外の平均値を表－4に示す。図－1を見ると、上流から下流にかけて徐々に水質が悪化していく状況が見取れるが、支川の上流域において水質の悪い地点があることも判る。

表－1 調査票（全国統一様式）

表－2 調査票（流域協議会独自様式）



写真－1 パックテスト
（簡易測定法）

表－3 調査地点数一覧

	山梨県内	神奈川県内	計
桂川・相模川流域	45	67	112
他流域	0	29	29
計	45	96	141

エ おわりに

今回の調査は、簡易な方法ではあるが、流域全体で同一方式を用い、ほぼ同時に測定を行うという初めての試みであった。また、調査地点を調査者自らが決めるということもユニークで重要なことであり、これらの意味で、非常に有意義な調査だったと言える。

皆さんの近くの水辺の水質はいかがだろうか。意外ときれいなところや、逆に何故か汚れているところもあるのではないだろうか。

なお、これは1回だけのデータのため、必ずしもそこを代表する値ではないかも知れない。継続して調査することが重要であり、年間の変化や一日の間での変化も探る必要もあろう。

全国事務局では、「100年間は続けよう！」と、すごい意気込みである。私たちも負けずに頑張ろう。

最後になりましたが、調査に参加された皆様、お疲れ様でした。



写真-2 調査風景



写真-3 最年少調査員！

表-4 流域内外の平均値(COD 中央値)

	山梨県内	神奈川県内	計
桂川・相模川流域	45	67	112
他流域	0	29	29
計	45	96	141

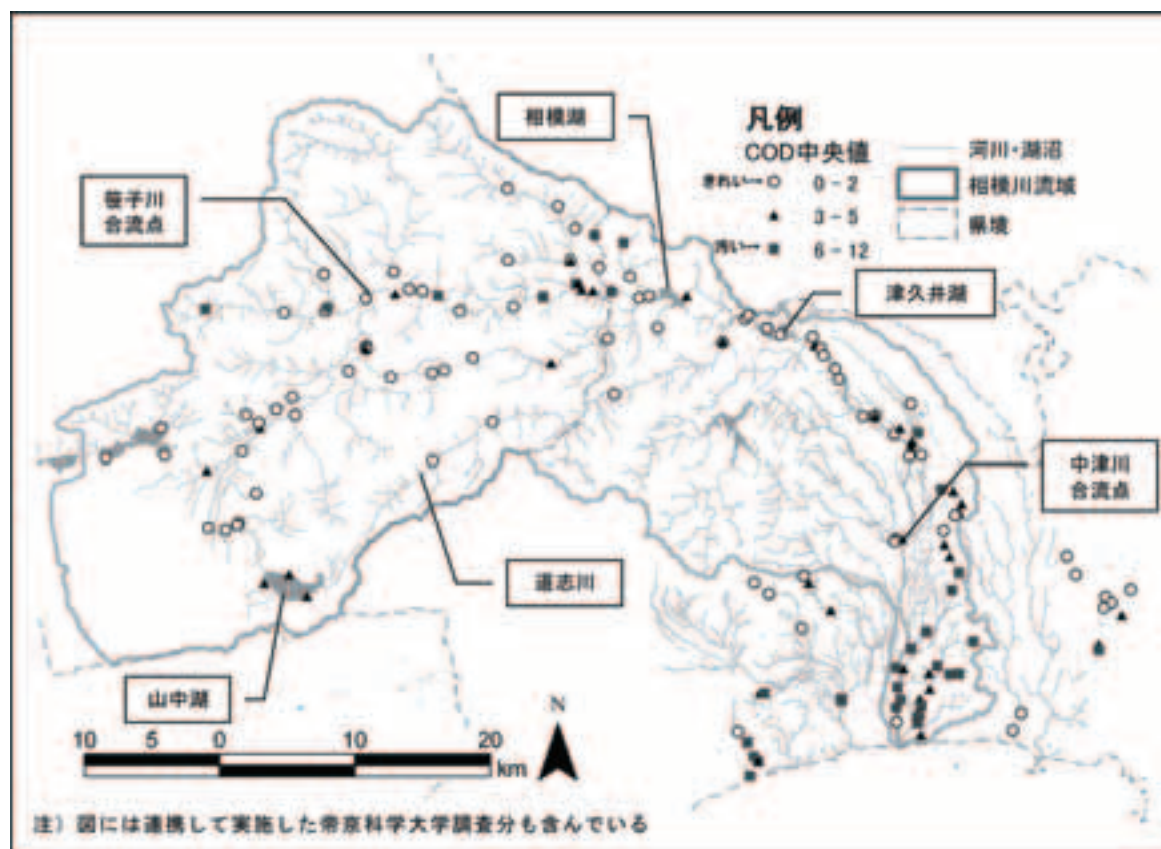


図-1 水質調査結果総覧図 (COD 中央値)

5 流域ツアー＆ウォッチング

(報告者 牧島信一)

(1) 活動目的

活動目的としては、桂川・相模川の流域の自然環境、文化を知るために、また、地域団体との交流を深めるために、流域及び水源域を訪れ、見学することにある。

(2) 具体的な活動と成果

ツアー＆ウォッチング（略してT & W）では、今年は上流域と下流域で2回の開催となりました。今回は参加者の報告から引用した。感謝。

① T & W 24 青木ヶ原樹海と富士吉田市メダカの学校・明見湖見学 2005年9月10日（土）総勢37名

参加。動物写真家中川さんの案内で、水源域の自然の魅力に触れることができたことに参加者の多くは帰りのバスの中でとてもよいツアーだったと高い評価をいただいたことから伺えた。大学生宮崎さんの報告から紹介。



野鳥の森公園のセンターにて説明

◆青木ヶ原樹海について

青木ヶ原樹海は今から千百年前に噴火した富士山から流れ出た溶岩流の跡地にできた森である。そのため、樹海にはところどころに流れ出た溶岩がその姿を残していた。樹海の中は外に比べて涼しく、外界との温度差は約5度であるという。樹海にはクマ・オコジョ・ヤマネ・シカなどの様々な生物が棲んでおり、日本の野生生物の約半数が棲んでいるとされている。ところが、樹海の中へと進んでいくと、肝試しのために使われた赤色や黄色のスプレーで色をつけられた木、白いビニールテープが道沿いの脇に長々と捨ててあった。小動物や鳥に絡まってしまうと非常に危険である。少し歩くだけでもごみを見つけられる。説明しながら中川さんは、回収して袋に集めていた。



蓮のある明見湖で、中川さん、勝俣さんと記念撮影

◆西湖から明見湖、メダカの学校へ

富士五湖の一つである西湖は、豊富な湧水で夏場でも11℃と冷たいため、ヒメマスの養殖が行われている。西湖を後にして、バスで明見湖へ向かう。湖を眺望台の近くでメダカの学校勝俣さんの出迎えを受ける。蓮の花も咲いていて、やさしい里の自然環境とそれを守るためにできるだけ人工的な護岸工事等をしていないで済ませる工夫を周辺の住宅地の方々との話し合いで進められた努力には頭が下がる思いがした。

明見湖を一周して、メダカの学校の水田を見ることができた。側溝の工事を

止めて貰うために農家の方々の理解を得ることもなかなかの難仕事だったことがよく理解できた。

② T & W 25：目久尻川 2006 年 1 月 23 日（月）

海老名市を中心にして、目久尻川を散策し、ホタルの生息地も見学することができた。総勢 15 名が参加・交流した。
会員村田さんの報告から引用。



雪道を柴崎さんの案内で歩く

目久尻川は座間市、海老名市、綾瀬市を流れ、寒川町で合流する相模川の支流。今回のツアー&ウォッチングは海老名市で活動している「目久尻川をきれいにする会」副代表の柴崎さんが目久尻川の流域を案内。集合場所の相鉄線かしわ台駅から歩いて目久尻

川のほとりに出た。ここはカモ類が多く、カルガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、オナガガモが同居、更にコサギやハクセキレイもいて、いきなり探鳥会のようなになった。河原に下りて相模原の参加者の小林さんが石をめくり、裏についているカゲロウ、トビケラの幼虫、モノアラガイなどを紹介。真冬でも生き物が豊富なことに驚かされた。水温を測ると 13℃ で、目久尻川は座間丘陵に沿って流れ、湧水が多いため水温が高いとのこと。湧水はいろいろな動物にとって、貴重な存在。次に川を離れて高台にある秋葉山古墳を見学。再び目久尻川沿いの道に戻り、下流へのウォーキングを開始。二日前の大雪が残り、ぬかるんで歩き難い場所もあったが、予定より若干遅れてコミュニティセンターに到着。ここで昼食をとりながら参加者 15 名の自己紹介があり、横浜や川崎、横須賀からも参加者がいて驚いた。「目久尻川をきれいにする会」会長の飯田さんも参加して、会の活動についての説明。11 年間活動の結果、汚染の指標 BOD が 1 / 10 にまで減少し、アユの遡上も見られるようになったとのこと。また EM ダンゴを小学校の授業の一環として生徒に作ってもらい、川に流す活動もしていることも驚きだった。途中、畑の電柱にチョウゲンボウを見つかりして楽しんだ。



城山公園にてホタル生息地案内

最終目的地の城山公園ではホタルの生息地を見学した。以前は農家のワサビ田だった場所。去年の夏には 150 頭のホタルを確認。この場所の水と光と植生がその条件に合っていることを確認。この後、城山公園の頂上付近で解散した。

◆補足説明： なお、今までのツアー&ウォッチングで訪問したルートを記録する作業が進行。画像データとしてホームページ等で公開予定。

6 桂川・相模川クリーンキャンペーン 2005

(報告者 神奈川県環境農政部大気水質課)

(1) キャンペーンの実施目的

「桂川・相模川クリーンキャンペーン 2005」は、「アジェンダ 21 桂川・相模川」に定められている「散乱ごみ・不法投棄のない地域づくり」と「市民、事業者、行政が連携した取り組み」の実践として、次の内容で毎年実施しています。

(2) キャンペーンの内容

ア 情報収集と周知

流域各地でごみ拾いを中心に実施される環境保全活動の情報を収集し、整理しました。そして、この情報を広く知ってもらい、多くの方々に参加していただくため、「桂川・相模川クリーンキャンペーン 2005 実施会場一覧」のチラシを期間中に 2 回作成し、協議会会員、環境保全団体への送付、流域各地の関係機関での配布や協議会のホームページでの紹介など広く周知を行いました。

チラシ総数 約 2,700 枚

イ 実施支援

クリーンキャンペーンの実施にあたり、資材として、ごみ拾いに用いるごみ袋、軍手及び参加者（特に子供たち）に川への関心を深めてもらうための簡易水質検査キット（COD、pH などのパックテスト）を希望する団体等に提供しました。（表 1）

表 1 資材提供実績

項 目	会 場 数	配布総数
ご み 袋	13	4,276
軍 手	11	3,940
パックテスト	9	330

(3) キャンペーンの結果

このキャンペーンでは、延べ 40 の団体等から収集したごみ拾いなどの環境保全活動の実施情報を周知した結果、それらの各団体が桂川・相模川流域において、主体的に実施した環境保全活動への参加者は合計 46,775 名、回収したごみの量は 114,994 kg でした。

実施結果の概要については、p.36 の表 2 のとおりです。

(4) キャンペーンの効果

市民、事業者、行政が連携したクリーンキャンペーンを実施したことにより、次の効果があったと考えられます。

- ① 流域環境保全活動に参加する機会を提供することができた。
- ② 環境保全意識を参加者に啓発することができた。
- ③ 流域協議会の活動を広くPRすることができた。



忍野八海クリーンキャンペーンの様子（8／25）

表2 桂川・相模川クリーンキャンペーン実施結果

No.	実施日	開催県	実施会場	主催者(団体)
1	4～7、9、10月2、4水曜	山梨	山中湖畔一円	山中湖観光地を美しくする会
2	4月16日	神奈川	千ノ川(円蔵、浜之郷地区)	千ノ川クリーンキャンペーン実行委員会
3	4月24日	神奈川	小出川	小出川に親しむ会
4	5月7日	神奈川	永池川	永池川を歩く会
5	5月7日	山梨	田原の滝	田原の滝こいのぼりまつり実行委員会
6	5月8日	神奈川	目久尻川(座間市内)	座間のホテルを守る会
7	5月8日	神奈川	道志川下流	津久井湖の自然を守る会
8	5月29日	山梨	道志川	道志村
9	5月29日	神奈川	三川合流点	厚木市
10	5月29日	神奈川	河口左岸干潟	相模川湘南地域協議会
11	5月29日	神奈川	神川橋下流河川敷	寒川町
12	5月29日	神奈川	中野、門沢橋	海老名市・市廃棄物対策推進協議会
13	5月29日	神奈川	神奈川県内各海岸	(財)かながわ海岸美化財団
14	5月29日	神奈川	茅ヶ崎市内海岸7箇所	茅ヶ崎市
15	5月29日	山梨	高月橋周辺	桂川漁業共同組合 大月支部
16	5月29日	山梨	杖突橋～川合橋	桂川漁業共同組合 巖支部
17	5月29日	山梨	八ツ沢橋～八米橋	桂川漁業共同組合 上野原支部
18	6月4日	山梨	松留発電所放水路付近	桂川漁業共同組合 島田支部
19	6月12日	神奈川	高田橋周辺	相模川を愛する会
20	6月26日	神奈川	神川橋下流河川敷	日本ボーイスカウト寒川第1団
21	7月2日	山梨	葛野川宮子橋	桂川漁業共同組合 七保支部
22	7月10日	山梨	アズクメ団地裏	桂川漁業共同組合 猿橋支部
23	7月10日	山梨	新倉橋～立野橋	桂川漁業共同組合 梁川支部
24	7月18日	神奈川	茅ヶ崎市汐見台海岸	(財)かながわ海岸美化財団
25	7月31日	神奈川	道志川弁天橋周辺	中道志川トラスト協会
26	8月7日	神奈川	平塚市民スポーツ広場付近	(特)PPG湘南平塚
27	8月7日	神奈川	相模大橋左岸側	地球チャイルド
28	8月10日	山梨	下畑橋～曙橋	桂川漁業共同組合 富浜支部
29	8月28日	神奈川	茅ヶ崎海岸7箇所	茅ヶ崎市自治会連絡協議会
30	9月4日	神奈川	座架依橋上流側	座間市
31	9月11日	神奈川	荻野川上流	厚木荻野自然観察会
32	9月13日	神奈川	目久尻川(古矢橋～用田橋)	高座地区河川をきれいにする会
33	9月15日	山梨	鶴川	(有)矢島園芸
34	9月18日	神奈川	神奈川県内各海岸	(財)かながわ海岸美化財団
35	9月25日	山梨	忍野八海周辺・東海自然歩道	忍野村観光協会
36	10月16日	山梨	さかな公園付近	忍野ユネスコ協会
37	10月16日	神奈川	弁天橋付近	中道志川トラスト協会
38	10月30日	神奈川	高田橋周辺ほか3地区6会場	相模川を愛する会
39	11月6日	神奈川	神川橋下流河川敷	日本ボーイスカウト神奈川連盟寒川第1団
40	11月27日	神奈川	平塚市朝霧河畔緑地	平塚市須賀公民館

雨天等で中止となったクリーンキャンペーン事業

—	2月予定	神奈川	千ノ川	千ノ川クリーンキャンペーン実行委員会
---	------	-----	-----	--------------------

※1 ごみの総合計量を推計するため、次により算出した。

・袋ごみは1袋20kgとした。

・バッテリーは1個15kg、タイヤは1本8kg、ガスボンベは1本50kgとした。

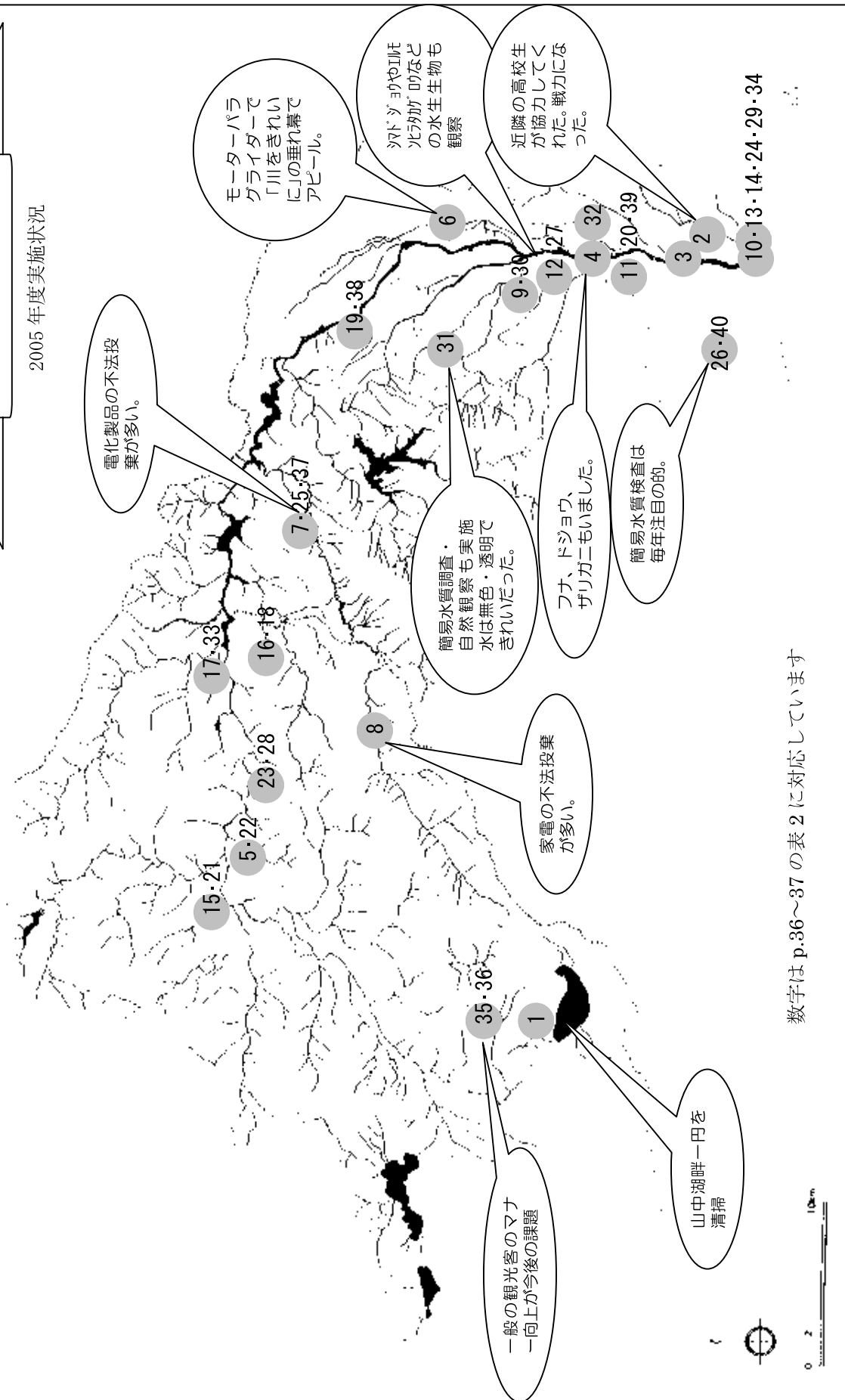
・具体名、数量が明示されていない粗大ごみ等はカウントしない。

※2 NO.1の山中湖畔一円でキャンペーン実施結果については、前回は一家庭ごみも含まれた数量(可燃ごみ、不燃ごみ合計で48,090kg)であったが、今回は参加者による回収分のみとして推計した。

事業名	参加者数	ごみ回収量(kg)			ごみ清掃以外の 実施項目	
		可燃ごみ	不燃ごみ	その他	水質検査	水生生物 調査
住民による一斉清掃	9,600	15,300	2,000	—	—	—
第11回千ノ川クリーンキャンペー	248	366	535	—	○	—
—	30	10	—	—	○	—
永池川を歩く会	32	—	10	バッテリー2	○	○
桂川ごみ清掃・こいのぼり・おす いとん会	45	100	230	—	—	—
目久尻川クリーンアップ大作戦	60	500	800	700	○	—
—	80	—	630	タイヤ、テレビ等	—	—
村内一斉清掃及び一斉消毒	630	580	3,490	タイヤ35、ガスボ ンベ2	—	—
第35回(平成17年度)相模川クリ ンキャンペーン	4,000	1,450	1,180	—	—	—
—	20	36	73	タイヤ7、クー ラーボックス等	—	—
相模川美化キャンペーン	1,585	410	1,100	420	—	—
相模川美化キャンペーン	1,200	2,000	4,500	1,500	—	—
ビーチクリーンアップかながわ	16,161	18,899	8,204	—	—	—
美化キャンペーン茅ヶ崎	2,300	3,440	700	—	—	—
—	25	30	35	50	—	—
—	10	10	15	20	—	—
—	23	15	10	18	—	—
—	10	13	10	18	—	—
相模川クリーン作戦	1,223	700	1,500	—	—	—
さむかわまちぐるみ美化運動	50	40	44	その他20個	○	○
—	10	25	20	30	—	—
—	10	20	15	30	—	—
—	10	10	10	15	—	—
全国豊かな海づくり大会ビーチク リーンアップ	800	2,000	1,000	—	—	—
—	100	280	450	—	—	—
—	18	50	75	30	—	—
相模川生き物・水質調査体験	23	2	4	—	○	○
—	13	13	15	20	—	—
美化キャンペーンクリーン茅ヶ崎	1,600	3,090	1,880	—	—	—
相模川クリーン推進運動	1,900	1,000	3,000	—	—	—
荻野川クリーンキャンペー	11	2	1	—	○	—
河川パトロール・河川環境美化運動	41	45	50	—	—	—
鶴川河川ゴミ清掃	18	60	40	—	—	—
国際海岸クリーンアップ2005	3,471	6,101	4,758	—	—	—
水源の里・忍野八海クリーンキャン ペーン	130	70	70	—	—	—
桂川流域清掃活動	15	5	7	バッテリー1	○	○
中道志トラスト協会河川美化活動	40	260	270	—	○	—
相模川クリーン作戦	1,113	1,000	1,930	—	—	—
さむかわまちぐるみ美化奉仕	60	300	600	—	○	○
—	60	70	20	—	○	—
合計	46775人	58043kg	39000kg	2650kg	↳ ごみ計 →袋ごみ計 →粗大等計	99693kg 741袋 バッテリー3 タイヤ42 ガスボンベ2
		259袋	281袋	201袋		
		—	—	バッテリー3 タイヤ42 ガスボンベ2		
ごみの総合計量(推計)		114,994 kg				

クリーンキャンペーン

2005 年度実施状況



数字は p.36～37 の表 2 に対応しています

表3 桂川・相模川クリーンキャンペーン参加団体の意見・感想

No.	参加団体名	感想・意見
2	千ノ川クリーンキャンペーン実行委員会	○ 収集環境については、全清掃地域で古い草木が事前に刈り込まれていたため、 ① 拾うときに顔・目などに突き刺さる心配をせずに済んで有難かった。 ② 収集し易かったので、小さいゴミまで拾うことができた。 ③ 収集時間が短縮できた。 ④ 原則的には、危険なため「川の中のゴミは拾わない」ということにしていたが、見通しがよくなった分、川の中のゴミが目立つ。取り除きたいと思う。今回も「トビロ」状の用具を4丁使うことは使ったが、到底足りなかった。悔しい思いは残る。反省会の材料になるだろう。 ○ 今年は円蔵地区で鶴嶺高校の野球部とバレーボール部が来た。先生の自慢の生徒とのことだが、戦力になった。今回は下見でゴミは少ないと判断していた。ところが結果は想像以上に多かった。円蔵地区のリーダー曰く「彼らは丁寧に拾っていた」とのことだった。
4	永池川を歩く会	○ 寒く感じたが、中央農業高校生徒6人と大人でゴミ拾いをしながら歩いた。生物もどんな生物がいるか調べた。小学生も参加していたので、フナ、ドジョウ、ザリガニをとって見せた。
5	田原の滝こいのぼりまつり実行委員会	○ 例年よりゴミの量はやや少なめだった。護岸工事の影響も考えられた。
6	座間のホタルを守る会	○ 可燃・不燃ゴミは座間市の清掃車で移動、粗大ゴミ等は県相模原土木事務所の管理地へ。両者の御協力をいただいた。 ○ COD調査結果(mg/l)上栗原橋4～5、橋場橋3、寒川橋3。
7	津久井湖の自然を守る会	○ ほとんどが不法投棄で、タイヤ、テレビなどの電気製品が多い。
8	道志村	○ 村を通っている国道413号線では、年々ゴミの不法投棄が増加している。家電4品目の投棄が近年特に多くなっている。
13 24 34	(財)かながわ海岸美化財団	○ 多くの方に海岸美化の普及を図ることができた。 ○ また、海づくり大会に関しては、地元住民をはじめ、多くの方が参加していただいた。第25回全国豊かな海づくり大会かながわ実行委員会と連携し、大会PRとともに、海岸美化の普及を図ることができた。
26	(特)PPG湘南平塚	○ 「川をきれいに」のたれ幕を掲げたモーターパラグライダーを飛ばし、他の河川敷利用者にアピールした。
27	地球チャイルド	○ 水質調査結果では、pH8、COD3～8。pHは、陽射しが強く光合成が盛んだったので、アルカリに偏ったと思われる。 ○ 確認された水生生物は、サナエトホのヤゴ、ウグイ・ヌマチブの幼魚、シマトジョウ、ウシガエルのオタマジャクシ、ヒゲナガカワトビケラ、エルモンヒラカゲロウ、シロタニガワカゲロウ、スジエビ ○ 河川敷ゴミ調査の結果は、花火109、ビニール片83、タバコフィルター64、紙片34、コンビニ袋17、アルミホイル14、ガラス片11 ○ 前日に花火大会が開催されたため、早朝に清掃が行われたようで、例年に比べゴミは少なかった。ただ、清掃後でもこれだけのゴミ量が見つかったことは通常の状態が想像できるというボランティア学生の意見もありました。
31	厚木荻野自然観察会	○ 簡易水質検査結果は、荻野川奥岩倉ダムpH7.5、COD2、荻野川用野pH7.5、COD4。 ○ 無色透明、無臭でとてもきれいな水だった。
36	忍野ユネスコ協会	○ 昨年まではこの流域は釣り針・糸、フィルムケースなどがかなり見受けられた。今回はそういった種のゴミはほとんどなく、代わりに車からの投げ捨てと思われる缶類などが多くみられた。釣り客、カメラマン等のマナー向上は認められたが、一般の観光客の意識向上が今後の課題である。
39	日本ボーイスカウト神奈川連盟寒川第1団	○ 川原の出入り口が閉じられているので、大きい不燃ゴミはなかったが、バーベキューの後始末ができていなかった。
40	平塚市立須賀公民館	○ ごみ清掃の後、参加者による相模川の簡易水質検査を行った。平塚市環境保全課職員が先ず検査を行い、続いて参加者も同じように検査を行った。この検査は毎年行っており、地域住民の相模川の水質に対する関心の高さが伺える。

※ №は p36 ～ 37 の表 2 の №である。

7 流域データベース化共同事業

(報告者 關 正貴)

(1) 事業の実施目的

流域協議会は2004年度より日本大学系長研究室とのパートナーシップで流域情報を整備・管理する流域データベース化共同事業（DB事業）を推進することとなった。今年度は2004年度から続き、2年目となる継続事業である。

このDB事業は、主として、紙地図に描くことの出来る情報をGIS（地理情報システム）を活用して整理・整備することと、図表などにまとめられた既存の情報を把握し整理することを目的としている。具体的には以下の2点を昨年度から実施している。

① 流域協議会事業のDB化

ここでは、流域協議会の各事業の成果をDB化する。この事業のDB化は他の事業とコラボレーション（共同）することで成立する。各事業の成果を次年度へ最大限に生かすための情報整理をおこなう。また、DB化した情報については公開を基本とし流域住民をはじめとした流域に関係する各主体へ向けた発信も試みる。

② 流域管理に向けた流域情報整備

ここでは、流域協議会の事業等の活動に際し必須となる情報の整備を行う。また、整備した情報は各種活動団体への情報支援に活用することを試みる。

これらは、流域協議会会員が自らの活動を客観的に見直すことを可能とするものであり、今後、流域保全活動を推進するにあたり最も重要な視点の一つになる。

(2) 事業の内容

2005年度のDB事業の活動内容は次の通りである。

ア 打合せの実施

2005年度は4度実施した。ここでは、主に下記のイ、ウ、エについての協議を行った。

イ 流域協議会事業のDB化

ここでは、流域協議会事業の成果のDB化として下記の事業に対して実施した。繰り返しになるが、この事業のDB化は他事業とコラボレーションすることで初めて成立する。他事業の活動をサポートするものとなれば幸いである。

ア) 流域ツアー&ウォッチング（T&W）

昨年度に引き続きDB化を試みた。昨年度は、新たな試みとしてモデル的に地図と帳票を作成し参加者に気づいた点を記入していただき、これをDB化することを試みた。これにより、参加者がT&Wの参加中に何を感じているのかを把握することが可能となった。

今年度は、T & W関係者が作成した、これまで歩いてきたルートをG I Sに入力することを試みた。これにより、流域内でのT & Wの濃淡が明らかになる。今後の事業開催地の選定等に役立つものと思われる。

(イ) 身近な水環境一斉調査（一斉調査）

今年度は新規に一斉調査の情報をD B化した。項目はアンモニウム、硝酸、亜硝酸、りん酸である。一斉調査にて座標整理までされた情報をG I Sに取り込んだ。作成されたD Bは下記のウで作成した流域情報とともに地図化され、流域協議会会報誌の「あじえんだ 113」に掲載された。

ウ 流域情報の作成

ここでは、流域協議会の事業等の活動に際し必須となる流域情報を、G I Sを使用して作成した。作成した情報は下記の2つである。

(ア) 河川図

国土地理院刊行の数値地図2万5千分1地形図に記載されている桂川・相模川流域の河川を全て手作業で入力した。また、河川名の把握は流域協議会の市民部会会員の方々にご協力を頂いた。

(イ) 流域図

国土地理院刊行の数値地図50mメッシュ（標高）からG I Sを使用して流域を算出し、その後、山梨県および神奈川県が発行している紙地図に記載されている流域界を参考に手作業で修正を加えた。

エ ホームページ（H P）の作成

ここでは、2005年度にイ、ウで整理・作成した情報の発信を行う前提で、H Pの作成を実施した。H Pは、公開に向けてD B事業関係者間で協議を行った。

オ D B事業勉強会の実施

横浜国立大学非常勤講師川崎昭如先生を、日本大学生物環境科学研究センターの会場にお迎えした。D B事業関係者および流域協議会会員、また日本大学の学生の参加もあった。G I Sの基礎やその活用方法、利点の理解を図った。



図1 作成中のホームページ

(3) 来年度に向けて

D B事業も2年が経つ。この間、事業をD B化する試みや情報の把握を行った。しかし、これらの情報の整理がまだ十分されているとはいえない。来年度は、これまでの活動をしっかりと整理することを課題としつつ、この2年間の活動をむやみに拡げることなく、深く掘り下げる形で推進していくことが必要である。

8 会報誌の発行

(報告者 山梨県大月林務環境部環境課)

桂川・相模川流域協議会の活動状況やアジェンダの推進状況について、広く会員等に周知するために会報誌「あじえんだ 113」を発行しています。2005 年度については、2005 年 10 月と 2006 年 3 月の 2 回発行しました。

また、桂川・相模川流域協議会のホームページ (<http://www.katura-sagami.gr.jp/>) より、創刊号からご覧いただけます。

今後も環境に関する情報や流域の話題などを発信していきたいと考えております。



あじえんだ 113 第 15 号
(2005 年 10 月号)



あじえんだ 113 第 16 号
(2006 年 3 月号)

9 ホームページの運営

(報告者 神奈川県環境農政部大気水質課)

(1) 2005年度のホームページ運営事業について

桂川・相模川流域協議会のホームページは、2001年9月から開設しておりますが、情報の発信を強化し、よりわかりやすい画面にするために2005年8月にリニューアルを行いました。(下記参照)

また、ホームページ運営委員会を組織して、掲載内容の確認や運営の意志決定を行っております。

さらに、ホームページの運営・更新に関しては外部に委託し、情報の更新を頻繁に行うことにより、アクセス数が増加しました。

(2) ホームページのアクセス数について

ホームページのリニューアルは、年度途中の8月に行われましたが、リニューアル後のアクセス件数が大幅に増加したため、今年度は年間を通して過去最高のアクセス件数となりました。今後も皆さんに親しまれるホームページを作成していきます。

☆桂川・相模川流域協議会ホームページの 各年度別アクセス数

年 度	アクセス件数 (件)	累計アクセス 件数(件)
2001年度	800	800
2002年度	4,299	5,049
2003年度	5,266	10,315
2004年度	5,561	15,876
2005年度	6,853	22,729

※ 2001年度は7ヶ月分



10 地域協議会の活動

(1) 桂川・東部地域協議会

ア 役員会の開催

役員会 5回開催

(4/5、5/13、7/28、9/2、1/26)

イ 総会の開催

H 17. 4. 17 (日) 大月市民会館

総会では、桂川流域の環境保全を図り、地域に根ざした持続可能な循環型環境保全を築くことを目的として、様々な森林保全体験や環境学習会を行っていくことが決定されました。また、議事後の写真展示会では、地域の人々により多く、桂川流域の環境保全活動に理解と認識を持って、活動に積極的に参加してもらえよう、花の会山梨支部の会員である大月市初狩町在住の小林博氏による、大月市内に自生する30種のスマレ生息状況に関する写真を展示しました。

ウ クリーンキャンペーン

(ア) 第4回親子の川遊び体験教室

H 17. 8. 20 (土)

大月市鳥沢地区桂川 43名

親子の川遊びからスタートして今年で6年目になりました。最初の参加者は、3名ほどのお父さんを除いて川釣りをした人はいませんでした。ということは、管理釣り場でお金を払って放流した魚釣りしか知らなかったことになります。簡単な道具で川の石裏についている小さな川虫で、ハヤ、オイカワ、時にはアユが釣れることなど全く知らなかったわけです。一昨年から賞品を出して表彰することになりました。今年は、大月市奈良子フィッシングセンターから「親子一組の日釣り券」、また釣具メーカーからの協賛を得てにぎやかに行われました。



優勝者はなんと大人の参加者ではなく、女の子が2時間に15匹を釣り上げてダントツの1位でした。今年は、川

遊びの楽しさをもっと知ってもらうために、昔の川漁法の実演などを計画しています。

桂川の上流部は、水質はAランクの評価を得ていますが、ゴミの多さは他に類を見ないほどの量が相模湖に流れ込みます。そのほとんどがビニール類などの家庭用品であります。

子供達がもう一度川に興味を持ってもらうことが、自然に桂川の浄化につながることを期待しています。

(イ) 東部地域のクリーンキャンペーン

①第3回桂川の支流クリーンキャンペーン

H 18. 3. 18 (土) 都留市夏狩地区

東桂中学校先生・生徒58名、大月林務環境部職員、都留市役所職員と共に桂川・東部地域協議会会員など総勢73名で実施しました。

湯の沢温泉駐車場を主体として多くの皆さんの協力をいただき、何でもなにごみがあるのかなどを話しながら、清流の里が何時までも綺麗で釣り人などみなさんに喜んで来てもらえる川である事に都留漁業協同組合関係者としても感謝しています。撤去量は自動車のタイヤ、自転車、クーラー、ストーブ、屋根材料など、可燃ごみ約0.1トン、不燃ごみ約0.3トンでした。東桂中学校の生徒の頑張りや奉仕に感謝しながら今後もお願いします。

②桂川・相模川クリーンキャンペーン 2005

H 17. 9. 15 (木) 上野原市鶴川 18名

上野原地区八米橋から鏡渡橋までの河川及び周辺のごみ清掃を行いました。当日の安全確保と時間内に行うため、1週間前から踏査し、ルート of 草刈り等をして、準備しました。結果、可燃ごみ約60kg、不燃ごみ約40kgのごみを回収しました。しかし、清掃予定地域にかかわる小さな沢に面して想像以上にゴミがあり、取りきれない状況でした。来年も実行できるとすれば、地域の方々にも参加していただき、また、行政の協力も仰ぎ、多くの人間で実行し、地域の問題として認識を深めれば、良いのではないのでしょうか？施行した近くの河川にも、大小の河川があり、ゴミは膨大に散在しています。本当に腰を据えて地域河川の清掃を行うには、行政の予算化を抜きにして実現する事は不可能なほどのゴミの量です。長年の計画が必要かと思われます。

エ 森林保全体験

(ア) 第5回きのこ植菌体験教室

H 18. 3. 26

大月市笹子町黒野田地区 14 名

今年で、5 回目になるきのこの植菌体験は、「大月森づくり会」との協働で、間伐整備した材を活用し、笹子黒野田のフィールドで行いました。クリの原木には、ぬめりすぎたけ、ぶなはりたけ、たもぎたけ、むきたけ、およびあらげきくらげの種駒を、クヌギの原木には、しいたけを植菌しました。

昼食には、きのこや手作りチャーシュー入りのラーメンと、笹一酒造さんからおいしい甘酒が振る舞われ、おいしくいただきました。また、今年度予定していた「炭焼き体験ツアー」が天候不良で中止となったため、炭焼きで事前準備しておいた竹炭を参加者に配布しました。



(イ) 植樹体験（大月森づくり会協賛事業）

H 17. 5. 1（日）

大月市笹子町黒野田地区 82 名

笹子の民有林で「大月森づくり会」主催の『植樹祭』に支援・参加。県有林 F S C 認証材で作ったデッキなどが整備され、最初の植樹した花、桃などが咲き始めた中、シオジ・コブシ・カエデなど 90 本を植樹。その後、森林整備で出た小径木にきのこを植菌。午後は整備中の少し明るくなった林内でのコンサート。参加者みんなで森への想いを語り合いました。

オ 活動継続・学習会

(ア) NO₂測定調査

本年はNO₂測定を1ヶ月間設置して日平均値を算出するカプセル調査を行いました。上野原10箇所、大月10箇所、都留5箇所の地点を6月から11月までの6ヶ月間と1月から3月までの3ヶ月間それぞれ連続調査しました。

設置地点付近で発生する二酸化窒素と神奈川や東京から流れてきた二酸化

窒素との混ざり具合、大気の流れの変化や風向きの状況など複雑ですが、多点調査をすることで、地域の大方の値や季節による変化など傾向を知る良い材料になると思われます。

今後も調査を積み上げていくことで身近な環境の変化などチェックの一助になればと考えます。

(イ) 浄化槽研修会 H 17. 11. 30（水）20名

北都留合同庁舎、大月都留広域事務組合桂川・東部地域協議会も発足して久しいが、大気汚染の調査、桂川の清流に流れ込む水質の学習会、河川の清掃、清流を生み出す森作り、きのこの植菌・炭焼体験等活動内容も充実し、循環型社会の構築にむけて同志の集まりも年々増えています。

本年2月1日より改正浄化槽法が施行、その目的に公共用水域の水質保全が明記され、放流水の水質基準や維持管理・清掃の監督強化、違反行為に罰金も盛り込まれました。現行の下水道事業は、地方自治体において大きな財政負担となっています。国土交通省は下水道使用料金について、事業の管理運営費のすべてを回収できる水準に設定し、確実に徴収するよう通知してきています。このことは、まさに受益者負担増につながり、下水道事業そのものが地方において破綻しかねません。桂川流域においても排水計画の早急かつ適切な見直しがされるべきです。

激動する社会に、一滴の水にこもる天地の恵みに感謝しつつ会の発展に励むものです。

(ウ) 環境学習会 H 17. 4. 3（日）8名

TEPCO葛野川PR館東京電力駒橋制御所NO₂測定調査に使用するカプセルを考案された天谷和夫先生においでいただき講演をうかがいました。

主に、行政の行っている空気汚染物質の調査結果と市民が行っているカプセル調査との差異についての考察や、カプセル調査の有用性など、多くの示唆をいただきました。今後に繋がる学習会でした。

カ 河川環境調査他学習

全国水質一斉調査 H 17. 6. 5（日）

桂川・相模川流域協議会が参加する「環境調査事業～身近な水環境全国一斉調査」に桂川・東部地域協議会も加わり、帝京科学大学の学生も参加協力しました。

(2) さがみはら地域協議会

(報告者 副代表 小林義博)

ア 水ガキ養成講座

カヌーと水辺の生き物

日時 9月4日 晴れ

場所 相模川 大島キャンプ場

参加者 30名 スタッフ 20名

カヌーの正しい乗り方を指導してもらう。

ひとり1人少し練習してから100m先へカヌーを漕ぐ。

小学校3年生の男子は初めてカヌーにのり自分の力で漕ぐ、100m先の終点まで。

こんなに楽しいことはない、もう一度やってみたい、とカヌーを押して上流へ戻る。

参加者全員カヌーを楽しんで学ぶ。

水生生物

川の深さ40cm以上の所は大人だけ、

子供たちは川岸と石の下。

川の生き物の取り方を指導して皆で川を学ぶ。

18種類の川の生き物

アブラハヤ	シロタニガワカゲロウ	シマゲンゴロウ
シマドジョウ	チラカゲロウ	オナガミズスマシ
ヨシノボリ	オオヤマカワケラ	モンキーマメゲンゴロウ
モツゴ	ナガレトビケラ	アメンボ
チチブ	ヘビトンボ	ツツトビケラ
ドジョウ	ヒゲナガカワトビケラ	アメリカザリガニ

ヒゲナガカワトビケラが70匹以上取れたので、皆さんに食べてみるかい、とおどろかせた。

佃煮びんづめで販売されているザザ虫をインターネットで購入しておいた。

初めての人が多く、カルシウムや蛋白質があるよと教えた。

1人が食べると皆さん恐る恐る手を出してきた。

水質検査 COD

現在川の汚れはポイステが一番の原因といい、参加者を半分に分けCODを測定させる。

川の水を発泡スチロールに入れてそのまま測定する人もいる。

初めて参加したお父さんに、ペットボトルの蓋に牛乳を入れてそのままポイと水の中へ投げ込んでもらい、残りの人たちにその水を測定してもらった。

あまりにも汚れが多い色に変化し、みんなおどろく。

ポイステで川の水は汚れるんですよ、川をきれいにしましょう、ゴミは持ち帰りましょうと言って終了した。

イ 田んぼの稲刈り体験講座

日時 10月16日 小雨～くもり

場所 勝坂遺跡公園下の里山

参加者 45名 スタッフ 20名

当日小雨がちだったが天気予報を信じて時間を1時間遅くして決行した。

参加者があまりにも多いのにおどろいた。

田んぼも少しぬかるみがあったが、皆さんに稲刈りのやり方を指導してあげ、稲刈りを楽しんでもらった。

お昼は餅つきをしながら豚汁を用意してあげる。

お椀お箸は竹で自分で作る。

小学校3年女子は初めて竹を切る。自分で作ったお椀で食べるのは大変おいしいとおよろこび。

参加したお父さんお母さんは竹でつくる箸に苦戦をしていた。

午後からは全員でサツマイモ掘りに泥だらけになりながら楽しんだ。

スタッフは刈り取った稲を乾かすのに奮闘した。

参加者全員におみやげとして自分で作った竹のお椀と箸、掘ったサツマイモとお餅を少し差し上げた。

今日刈り取った稲で12月25日に餅つきをします、ぜひ参加してくださいと申し上げ、解散した。

ウ 生ゴミ堆肥化

この事業は9月頃から始まったばかりなので継続していくことになりました。

(3) 相模川湘南地域協議会

ア 総会シンポジウムと総会

2005年度は初の試みとして4月24日に、総会に先立ってシンポジウムを行い、会員以外の参加も自由とし、協議会の活動に関心のある方には総会にも引き続き傍聴で参加して頂き、できるだけ多くの一般市民に、協議会を知って頂くようにした。

シンポジウムは運営委員であった平田孝一氏により「世界の水危機と日本の現状」と題して行われ、参加者は19名であった。講演内容は世界的な水危機の状況が、各地に紛争をももたらし、砂漠化を激化させ、日本は農産物の輸入を通して、世界中から水を収奪していることを指摘された。平田氏は今後益々の活躍を期待されていたのに、まことに残念なことに11月に他界された。謹んでご冥福をお祈りします。

イ クリーンキャンペーン

5月29日、恒例のクリーンキャンペーンが相模川河口左岸で行われた。パラグライダーの愛好者など会員外の参加もあり、20名で海岸の清掃にあたった。清掃後は見違えるほどきれいな海岸になった(写真1、2)。

ウ 鈴川河川改修現地見学会

5月26日、花水川の支流で、現在道路改修と河川改修が併行して進められている鈴川の改修工事について、その全体計画と現在までの進行状況を県平塚土木事

務所の担当者3名、平塚市水政課の担当者2名の参加を得て、学習見学会を行った。南原自治会館で鈴川ワークショップの経過を含めてこれまでの市民への説明経過や、災害時の対応策などの質疑応答を行った後、近くの鈴川堤防に出かけて現場での説明を受けた。その後に参加者の感想を集めて報告書を作成した。市民側の参加者は16名であった。

エ 河川の水質調査

6月5日と12日に桂川・相模川流域協議会本体の事業である水質調査に5名が参加し、相模川本流では右岸3ヵ所、左岸2ヵ所、引地川2ヵ所、千の川、鈴川、渋田川で各1ヵ所ずつ測定を行った。結果はあじえんだ113第15号に報告されている。

オ 上下流交流事業

8月4日、流域協議会本体事業としての上下流交流事業がおこなわれ、受け入れ側の地域協議会として協力した。平塚漁業協同組合の協力により、海に船を出して海の環境観察会を行い、午後は平塚市教育会館で山梨、神奈川両県から参加した小学生たちの交流の後に、浜口平塚市博物館長と木幡元神奈川県淡水魚増殖試験場長の講演を頂いた。参加者は湘南地域協議会からは小学生を含め60名であった。

カ 県環境科学センター見学学習会

9月1日、平塚市西八幡にある県環境科学センターで見学学習会を開催した。



ゴミを拾う前の有様



ゴミを拾った後の様子



鈴川の土手で説明を受ける参加者

テーマは「相模湖・津久井湖における硝酸性窒素除去の可能性」で、現在、県環境科学センターでこのテーマで進められている研究の内容を聞かせて頂き、実験室での実験の状況も見せて頂いた。参加者は11名であった。

キ 流域協議会シンポジウム参加（パネル展示も実地）

11月5日、相模原市で行われた流域協議会のシンポジウムに3名が参加した。当地域協議会の活動状況を示すパネルを手作りで作成しパネル展示を行った。このパネルはその後も機会があるごとに活用されている。

ク Jパワー研究所公開学習会

11月10日、茅ヶ崎市にある電源開発株式会社研究所において「河川における水の循環と土砂の移動」のテーマで学習会を行った。電源開発株式会社は水力発電のためのダム建設などを専門とする会社であり、河川の工事や維持管理には造詣が深い。湘南地域協議会は、地元茅ヶ崎海岸を抱え、その海岸が近年特に痩せてきていることから、会員の関心も高く、専門家からの説明には多くの参加者が注意深く聞き入っていた。実験施設の案内もあり、土砂の川床での移動がどのようにして起こるかという模型実験など興味深いものがあった。参加者23名。

ケ バードマップの編集

湘南地域に生息する野鳥たちが一目で分かるようなマップをつくり、小中学生



フォーラム会場

にもその視点から環境問題に関心を持たせるのも有意義であろうと、前年度より計画を進めてきた。その方面に詳しい専門家に依頼し、年度末で基本的な資料集めを終わり、2006年秋までには刊行の運びとなるべく準備を進めている。なお、この事業の資金調達のための小中学生を対象としたピアノコンサートを支援した。

コ フォーラムの開催

2月25日「相模湾から見た日本の漁業と世界の水産」と題してフォーラムを開催した。講師には元神奈川県淡水魚増殖試験場長の木幡孜氏と水産貿易の専門家である西出亨氏を招いた。講演内容はその分野の第一人者であるだけに問題点を専門外の参加者にも分かりやすく的確に指摘なされ、たとえば国産の水産物は十分に漁獲可能であるにもかかわらず、値段が安いというだけの理由で市場から敬遠され、高い遠洋漁業の魚や、輸入水産物が流通の大半を占めていることなどが報告された。

サ 運営委員会

いくつかの点で運営委員会の運営方法が改善された。原則として毎月第一木曜日の午後に定例化したこと、会場や手配を茅ヶ崎、平塚、寒川の3市町で持ち回りにしたこと、自治体の運営委員としての役割を明確にしたことなどである。毎月定例の運営委員会を開き年間12回の運営委員会を行った。

(4) 相模川よこはま地域協議会

(報告者 牧島信一)

「神奈川県東部地域に住む市民の命の源・水道水をもっと知ろう、そして課題解決に連携・協調しよう」との目標で、役員・事務局・市民部会会員が主体となって実施。H 17 年度は"みず"探検と協働の行動元年となりそうである。幾つかの活動を以下に紹介する。

横浜では、まず大都会の市民に身近に水源の里の恵みと水質問題を肌で感じて貰おうと、市民活動フェア(05 年 4 月 16 - 17 日)において出展、即売と実演を行った。流域マップの紹介、石鹼による換気扇の洗浄等を行った。また、クレソンの販売は大好評で、半日で完売した。相模川よこはま地域協議会(略してヨコハマ)の顔となっている交流事業の一つである。(photo 1)



photo 1 人気 クレソ 即売と
石鹼での換気扇洗い

当地域協議会総会は、6 月 24 日に開催され、役員、H 17 年度事業計画と事業予算が承認された。事業の柱は、会議等の開催を基本に、交流(啓発含む)事業と学習(調査研究含む)事業が大きな柱となっている。交流の中に学習あり。また、学習の中に交流あり、というのが実態だが、主たるねらいで分類して以下に紹介する。いずれも主催・共催を基本に紹介し、一部はよこはま地域協議会の役員・事務局等の複数人の主体的な参加によるものも紹介。

① 交流(啓発含む)事業について紹介

◆ 6 月 26 日、温暖化防止エコツアー(山中湖、道志村)の交流促進事業共催(かながわアジェンダ推進センターと協働実施)。大人 29 人・子供 9 人の総勢 35 人参加。主として道志のやさしい水源の里の自然を満喫。

◆ 9 月 10 日、T & W 24 青木ヶ原樹海(動物写真家の中川さん案内)、富士吉田市のメダカの学校と明見湖見学会(校長勝俣さん案内)への協力。ヨコハマから多数参加。



photo2 忍野村観光協会主催 クリーンキャンペーン

◆ 9 月 25 日、忍野観光協会主催クリーンキャンペーンに協力。ヨコハマから 4 名が参加し、交流。(photo 2)

◆ 10 月 1 日、水源の里(上野原)体験学習 & 交流促進事業への参加・協力。ヨコハマから多数の家族が参加。(photo 3)



photo 3 大都会から子供達

◆ 11 月 5 日、桂川・相模川流域シンポジウムにてパネル出展(自主事業)

◆ 12 月 18 日、地球温暖化防止の集い"みず"分科会の協働開催による啓発事業。"みず"分科会をコーディネートし、桂川・相模川、酒匂川、目久尻川等で活動する市民団体間で交流を図ることができた。諸団体から 20 名参加。

◆ 12月25日、みかんの花咲く丘の収穫祭への参加による交流事業の実施。大人11人・子供8名の総勢19人参加。温暖な自然の恵みと、自然農法の食育を満喫。

◆ 06年1月23日、T & W 25目久尻川、柴崎氏(目久尻川をきれいにする会の副代表)が主として海老名市域を案内。浄化のために小学生と一緒にEM団子を作り川に流すなど地域に密着した活動を紹介。総勢15名の内、ヨコハマから多数参加。

◆ 2月26日、自然保護協会40周年記念パーティに活動団体として参加。

② 学習(調査研究含む)事業について紹介

◆ 6月5日、身近な水環境全国一斉調査に6名参加・協力。

◆ 9月28日、西谷浄水場見学会に10名参加(photo 5)

◆ 11月11日、横浜市環境科学研究所主催研修会『ミティゲーション』の受講

◆ 06年1月18日、小雀浄水場、栄第2水再生センター。下水処理場の見学は地域協議会として初めてのことで、7名参加。川の水質に大きな影響を与えていることに新鮮な興味を皆さんが抱いた。(photo 5)

◆ 06年2月16日、かながわアジェンダ推進センターとの協働によるテーマ別研修「水質検査と水生生物」の実施と参加。10名が参加。実際に水質検査ができるようになったことと、水質と水生生物の関連性が理解できたと評価が高かった。

◆ 06年3月10日、環境学習講演会「南極の水の海と生き物」開催。講師は星合孝男氏(元国立極地研究所所長)で、海の生態系を中心にじっくり分かりやすく聞けたと参加者からは大好評。参加14名。

◆ 06年3月12日、流域データベース・GIS勉強会にヨコハマから多数参加。講演は横浜国大COEフェローの川崎昭如氏。日本大学生物資源科学センターも見学した。

以上



photo 5 水質の専門家からヒヤリング



photo 6 下水道見学後、懇談



photo 6 小雀場内にある横浜/鎌倉の境界



photo 7 星合氏、南極の海を語る

11 その他の事業

(報告者 河西悦子)

(1) 森づくり関係事業（「笹子の森」水源地観察会）

2005年11月20日（日）神奈川の人々の大事な水がめ『相模湖』に流れ込む桂川の支流の一つ笹子川の源『笹子の森』で水源地観察会を行いました。前年度は緑鮮やかな夏でしたが、今回は秋の紅葉の時期に企画しました。しかし、暖かい日が続いても続いた今年の秋は、紅葉は残念ながら今一つでした。当日は薄日差し冷え込みが厳しい一日でしたが、神奈川と山梨の協議会会員、地元スタッフとして「大月森づくり会」や大月短大の学生・笹子小の親子など40名が参加。参加者からは「寒かったけど内容は多岐にわたって楽しめた」と好評でした。今回、大月市環境課をはじめ大月森林組合・甲斐東部木材団地・野草の会など多方面からご協力いただいています。

〔日程〕

8:00 横浜駅出発

11:00 大月市笹子

「大月森づくり会」フィールド到着

○間伐材で『ミニプランター制作』

「イセナデシコ」寄せ植え

○昼食：豚汁、おいなりさん

○山主天野さんの『笹子の森の話』

○皆越ようせいさん指導『土壌生物観察』

// 『土壌生物写真スライド上映』

13:40 ○笹子峠、『矢立の杉』見学

○「大月森づくり会」林会員による

『笹子の蝶の生息調査について』

○大月森林組合天野参事の案内で旧道散策

15:30 ○笹一酒造到着「新酒祭り見学」

16:00 大月出発

18:00 横浜到着



山主天野さんのお話
山梨県FSC材での
ログハウスの横で



「ミニプランターに
植えたイセナデシコ」



林さん
『笹子の蝶の
生息調査』



皆越ようせい
さん『土壌生
物観察』
子どもたちが
夢中で見つめ
ていました。



笹子峠旧道散策
落ち葉を踏みしめて



大月森林組合参事

『矢立の杉』について
「日本一の富士山」と「日本を代表するスギの名木」は共に山梨の誇りです。現状を見ると直ちに措置が必要。根元の空洞部に人が入らないように柵の設置など、「樹木医」の診察を受けることも大切です。



※参加者の杉村敬一さんから丁寧な感謝のお手紙を頂きました。

(2) 洗剤対策事業

(作成者 中村道子)

ア 家庭用洗剤対策事業

上野原市では春と秋の年2回フリーマーケットが行われています。地域の主婦たちが組織するうえのはらりサイクルの会が運営し、フリーマーケットの売れ残りなどの布類やフリーマーケットに参加できないけれど着なくなった衣類などを処分したい人々については、同じく企画運営している翌月のファイバーリサイクルによって、甲府の業者さんに回収していただいています。

17年5月22日(日)に行われたフリーマーケットに、コープやまなしさんと隣りあわせに場所を確保して、換気扇洗いを行いました。

桂川・相模川流域協議会の啓発ポスターを机の前面に貼り付け、会報誌あじえんだ113などを配布しながらの換気扇洗いは結構楽しく、油污れの落ち具合を見てもらえました。

となりのコープさんの粉石けんが品切れになり、どこで手にはいるかなどフリーマーケットが済んでも聞かれたりしました。

イ ビルメンテナンスの洗剤対策事業

これまで市民にできる石鹼使用推進活動は家庭内の洗剤にのみアプローチしていたが、今年からビルメンテナンスの事業者であります田嶋さんがメンバーとなって、ビルの洗浄剤を石鹼に切り替えることの必要性を市民部会や専門部会などの場で発表してくださいました。

これらの経過から、シンポジウムでの分科会として洗剤対策分科会を開くことができました。

一般の家庭に普及している合成洗剤よりずっと濃度も濃く、そのため業者さんの健康被害が心配されると共に、ビルを洗浄した汚染水は大方雨水と同様に河川にじかに流れ込んでいくこと、その量は膨大な分量であり河川環境に大きな影響が心配されるなどの指摘もあり、改めて石鹼使用の必要性を痛感しました。

今後の活動の組み立てなど、業務用の洗剤という分野に私たちがどのように関わっていけるのかなど、新しい展開に心新たに向着ていきたいと思っています。



(3) 外部との交流・連携

ア 独立行政法人国際協力機構（JICA）からの研修生の受け入れ

（報告者 神奈川県環境農政部大気水質課）

平成 17 年 11 月 5 日（土）に開催された桂川・相模川流域シンポジウムにウルグアイからの JICA 研修生 3 名が参加し、パネル展示も行った。

また、同 11 月 7 日（月）には、神奈川県事務局を訪問し、桂川・相模川流域協議会の活動事例を紹介した。

（来日の目的）

日本における水質管理の中で、戦略策定、汚染源管理、水質モニタリング、普及啓蒙・住民参加の各段階における技術を習得し、ウルグアイ国で適用できるノウハウを蓄積する。

研修生は、ウルグアイ国の大気・水質・土壌等の行政の責任者であり、20 日間の来日期間のうち、研修の一環として当協議会の活動を見学したものである。

イ 日大生物環境科学研究センターとの連携

（報告者 関 正貴）

平成 17 年 9 月 30 日（金）に日本大学生物資源科学部大講堂（神奈川県藤沢市）にて「自然と人が無事に生きつづけられる地域環境づくり国際シンポジウム」が、日本大学生物資源科学部、同生物環境科学研究センター、日本大学大学院生物資源科学研究科・獣医学研究科主催のもと開催されました。このシンポジウムでは、生態地域環境としての「流域」に注目し、そこでの課題や展望について、日本、欧州、アジアから 7 名の講演があり、国際的な比較検討が行われました。また、参加者は延べ 434 名（学生 348 名、教職員 51 名、一般 35 名）でした。

わが流域協議会は後援という形で参加し、参加者全員に流域協議会の案内用チラシを配布しました。またこの他では、受付の横にテーブルを用意し、希望者に、あじえんだ 113 会報誌、2004 年度活動報告書を配布しました。

大学での開催ということもあり、特に、多くの学生の参加があり、流域環境や地域環境づくりに興味のある若い世代に流域協議会の活動を認知してもらうよい機会となりました。



JICA 研修生による展示



日大での国際シンポジウムの様子

ウ 水源の里・忍野八海クリーンキャンペーン

(報告者 山梨県大月林務環境部環境課)

2005年9月25日(日)、忍野村観光協会主催、忍野村及び桂川・相模川流域協議会共催により、水源の里・忍野八海クリーンキャンペーンが開催された。

午前は忍野八海、桂川周辺、東海自然歩道等で100名を超える参加者が清掃活動を実施した。

午後には、忍野村観光ボランティアガイドによる忍野八海周辺の歴史等の観光案内もあり、充実した内容となった。

忍野村観光協会では、地元住民を中心に年3～4回程度、忍野八海を中心とした清掃活動を行っている。大規模な動員は今回が初めてということであったが、曇天(小雨)にもかかわらず一生懸命活動してくれたので、毎年継続して実施していきたいとのことであった。

エ 平成17年度 KANAGAWA Clean Wave Network (山・川・海 生き生きクリーンキャンペーン) との連携について

(報告者 神奈川県環境農政部大気水質課)

このキャンペーンは、清掃による豊かな自然環境を保全する取り組みを行うにあたり、山岳美化、河川美化、海岸美化と地域ごとに個別に実施していた美化運動を地域を越えて密接に連携することで、山・川・海のクリーンネットワークを構築し、より強力に美化運動を推進していくため、「丹沢大山クリーンピア21」(事務局:神奈川県自然環境保全センター)と「(財)かながわ海岸美化財団」が主催する新しい運動の波(Wave)です。

本協議会は、平成17年10月16日～11月27日に開催されたこのキャンペーンに協賛しました。

10月16日に清川村役場、11月6日に茅ヶ崎市ヘッドランドで開催されたメインキャンペーンを始め、県内各地の山・川・海において清掃作業等が行われ、合計では224団体、6,723名の参加がありました。



忍野八海クリーンキャンペーンの様子

資料

桂川・相模川流域協議会規約

（名 称）

第1条 この会は、桂川・相模川流域協議会（以下「流域協議会」という。）という。

（目 的）

第2条 流域協議会は、桂川・相模川の流域（河川において地表に降った降水を集水する地形的な範囲をいう。以下同じ。）の行動計画である「アジェンダ21 桂川・相模川」を推進することにより桂川・相模川の流域の環境保全を図り、もって、持続可能な発展を基調にした環境保全型社会を築くことを目的とする。

（事 業）

第3条 流域協議会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 「アジェンダ21 桂川・相模川」の策定、推進、評価及び見直し
- (2) 桂川・相模川の流域の環境保全を図るための事業
- (3) 流域協議会の会報誌の発行
- (4) その他流域協議会の目的達成のために必要な事業

（会 員）

第4条 流域協議会の会員は、正会員及び賛助会員とする。

- 2 正会員は、桂川・相模川の流域の市民、事業者（公営企業を含む。以下同じ。）、行政（地方公共団体（公営企業を除く。）及び国をいう。以下同じ。）、桂川・相模川の水を水道水として利用している者、その他流域の環境保全に関係する者で、本会の目的に賛同する者とする。
- 3 賛助会員は、本会の目的に賛助協力する者とする。
- 4 流域協議会の会員は、会費、負担金、賛助金（以下「会費等」という。）を納めるものとする。
- 5 会費等は、年額とし、毎年4月1日から5月31日までに納入しなければならない。
- 6 会員は、流域協議会が行う事業への優先参加並びに流域協議会が発行する会報誌及び図書の優先配布を受けることができる。

（入会及び脱会）

第5条 流域協議会の入会及び脱会に関する事務は、事務局（第15条に規定する事務局をいう。）が行う。

（役 員）

第6条 流域協議会に、次の役員をおく。

- (1) 代表幹事 5名
- (2) 幹事 主体（市民、事業者及び行政をいう。以下同じ。）別部会毎に5名以上10名以内
地域協議会（第11条の規定により地域に設置された協議会をいう。）毎に1名
- (3) 会計 1名
- (4) 監事 3名
- 2 役員は、会員の中から、幹事は各主体別部会、地域協議会が推薦した者について総会において承認し、役員は総会で選出する。
- 3 代表幹事は、幹事の互選により定める。
- 4 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 役員が欠けた場合における補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（役員の職務等）

第7条 代表幹事は、流域協議会を代表し会務を総理する。

- 2 幹事は、流域協議会の運営について協議する。
- 3 会計は、流域協議会の会計事務を担当する。
- 4 監事は、流域協議会の会計及び会務執行を監査する。

（総 会）

第8条 総会は、定期総会及び臨時総会とし、代表幹事が招集する。

- 2 定期総会は、会計年度終了後、毎年1回、開催する。
- 3 臨時総会は、代表幹事が必要と認めたとき、又は、幹事会若しくは監事の要求があった場合に開催する。
- 4 総会の議長は、その総会において選出する。
- 5 総会は、次に掲げる事項を協議・決定する。
 - (1) 規約の制定、改廃
 - (2) 会計及び監事の選任並びに幹事の承認
 - (3) 事業計画及び収支予算に関する事項
 - (4) 事業報告及び収支決算に関する事項
 - (5) その他幹事会が必要と認める事項
- 6 総会は、会員の現在数の2分の1以上の出席（委任状を含む。）がなければ開くことができない。
- 7 総会の議決は、流域協議会が流域環境保全の合意を形成するための協議の場であることに鑑み、正会員の合意をもって行う。
- 8 総会において議決に至らなかった事項については、総会において、各主体から5名以内の会員を選出して、協議機関を設置し、協議・決定するものとする。この協議機関における協議決定事項は、流域協議会の総会の議決とみなす。

（幹事会）

第9条 役員は幹事会を組織し、幹事会は総会で議決した事項を執行する。

- 2 幹事会は、必要に応じ代表幹事が招集し、幹事会の議長は代表幹事の中から選出する。
- 3 幹事会は、流域の環境保全の取組みに関し合意を形成するための協議の場であり、「アジェンダ21 桂川・相模川」の達成状

- 況の評価、見直し、流域協議会の取組み等について協議する。
- 4 幹事会は、総会に付議すべき事項を協議・決定する。
 - 5 幹事会は、事務局長及び事務局員について、協議・決定する。
 - 6 幹事会は、協議に必要な会員の出席を求め、その意見を聞くことができる。

（主体別部会）

- 第10条 流域協議会に主体別部会を置く。
- 2 会員は、主体別部会にそれぞれ所属する。
 - 3 主体別部会は、「アジェンダ21 桂川・相模川」の達成状況の評価、見直し、流域協議会の取組み等について協議する。
 - 4 主体別部会は、流域協議会の運営を行う幹事を選任する。
 - 5 主体別部会の運営については、主体別部会がそれぞれ定める。

（地域協議会）

- 第11条 地域における桂川・相模川の流域の環境保全の取組みを推進するため、地域協議会を設置することができる。
- 2 地域協議会は、流域協議会の運営を行う幹事を選任する。
 - 3 地域協議会の運営については、地域協議会が定める。

（専門部会）

- 第12条 幹事会に、流域の環境保全に関し専門的に検討するため、専門的な事項別に、専門部会を設置することができる。
- 2 専門部会は、専門的な事項に関係のある主体で構成し、検討結果を幹事会に報告する。

（会 計）

- 第13条 流域協議会の活動に要する経費は、会費等、補助金その他の収入をもってあてる。
- 2 流域協議会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
 - 3 会費等の規定については、別に定める。

（委 任）

- 第14条 この規約に定めるもののほか、流域協議会の運営その他必要な事項は別に定める。

（事務局）

- 第15条 流域協議会に事務局を置く。
- 2 事務局には、事務局長及び事務局員を置くことができる。

（附 則）

- 1 この会則は、平成10年（1998年）1月20日から施行する。

（附 則）

- 1 この会則は、平成10年（1998年）1月31日から施行する。

（経過措置）

- 2 流域協議会の設立当初の会計年度は、第13条の規定にかかわらず、設立の日から3月31日までとする。
- 3 流域協議会の設立当初の役員の任期は、第6条第4項の規定にかかわらず、設立の日から平成10年（1998年）度に開催される定期総会までとする。

桂川・相模川流域協議会の運営に関する細則

平成10年（1998年）1月20日制定
平成11年（1998年）5月29日一部改正

桂川・相模川流域協議会規約第14条の規定に基づき、桂川・相模川流域協議会（以下「流域協議会」という。）の運営に関する細則を次のとおりとする。

- 1 桂川・相模川の流域の環境の保全に向けて、「アジェンダ21 桂川・相模川」を推進するとともに、市民、事業者、行政（以下「主体」という。）は継続した協議を通じて相互に理解を深め、合意を形成する。
- 2 流域協議会を開かれたものとするため、必要な情報は共有する。
 - ・流域協議会の議事内容は公開とする。
 - ・会員は、幹事会、地域協議会、専門部会に参加することができる。
- 3 流域協議会の会員は、桂川・相模川流域の環境保全の取組みについて対等な立場で提案し、協議を行う。
- 4 各主体は、「アジェンダ21 桂川・相模川」及び流域協議会の合意事項を尊重するとともに、実効性のある環境保全のための方策を推進する。
- 5 各主体は、必要に応じて、学識経験者・専門家の出席について合意し出席を要請する。
- 6 幹事は、必要な場合は、代理者を立てることができる。
- 7 4月1日から定期総会が開催される日までの間の流域協議会の事業の実施については、幹事会において決定し、会計はその経費を支出することができる。

【桂川・相模川流域協議会 役員及び事務局 2005年度】

役員			市 民 部 会	事 業 者 部 会	行 政 部 会	地 域 協 議 会
代表幹事	山 梨 県	河西悦子			山梨県大月 林務環境部	
	神奈川県	倉橋満知子 小宮 昇				
幹 事	国				国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所	
	山 梨 県	在原将行 河西悦子 中村道子 宮野 貴		北都留森林組合 東京電力（株）	山梨県大月 林務環境部 大月市 富士河口湖町	桂川・東部地域協議会 …勝俣藤久
	神奈川県	氏家雅仁 倉橋満知子 桑垣美和子 小宮 昇 關 正貴 林 久男		川崎市水道局 国土環境（株） ミヨシ石鹼（株）	神奈川県環境農政部大気水質課 相模原市 平塚市 愛川町 藤野町	相模川湘南地域協議会 …井上駿 相模川・よこはま地域 協議会 …牧島信一
	山 梨 県					
会 計	山 梨 県					
	神奈川県				神奈川県環境農政部大気水質課	
監 事	山 梨 県				山中湖村	
	神奈川県	石田幸彦		津久井郡森林組合		
事 務 局	山 梨 県				山梨県大月 林務環境部環境課 "	宮本英敏 長田勝由
	神奈川県	小西一郎 松川義彦			神奈川県環境農政部大気水質課 " " " " "	飯田和義 （事務局長） 杉山孝司 宮治正志 長瀬昌一 堀田健治

桂川相模川流域協議会主体別会員数一覧

(2006. 3. 31 現在)

○市民部会

市民会員 203名
市民団体会員 16団体
おおつき女性交流会 大月森づくり会 桂川相模川ネットワーク 相模湖・津久井湖等の水質保全を求める連絡会 相模川キャンピングシンポジウム 平塚の自然を守る会 鳩川・縄文の谷戸の会 鳩川・水辺の森の会 よこはま水と森の会 帝京科学大学環境マテリアル学科 特定非営利活動法人PPG湘南平塚 特定非営利活動法人森づくりフォーラム 全水道神奈川県支部

横浜市水道局 神奈川県内広域水道企業団 国土環境（株） 地域交流センター ミヨシ石炭（株） 共生食品（株） （有）矢島園芸 北都留森林組合 山正産業（株） （株）すとるく
事業者団体会員 4団体
平塚地区環境対策協議会 厚木愛甲地区相模川水系をきれいにする会 相模川流域下水道事業連絡協議会 相模原の環境をよくする会

○事業者部会

事業者会員 34団体
フォレストファーム 笹一造（株） 河口湖精密（株） 桂川漁業協同組合 山英建設（株） 東京電力（株）山梨支店大月支社 生活協同組合c o o pやまなし 富士燃料（株） 旭ファイバーグラス（株）湘南工場 コカ・コーラセントラルジャパン（株） 日鉱金属加工（株）倉見工場 （財）神奈川県都市整備技術センター 津久井郡森林組合 （財）北里環境科学センター 神奈川県治水砂防協会 （財）かながわ海岸美化財団 （財）神奈川県下水道公社 （財）宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 （財）神奈川県公園協会 J A神奈川県中央会 神奈川県企業庁利水局 横須賀市上下水道局 川崎市水道局 神奈川県企業庁水道局

○行政部会

行政会員 23団体	()内は担当室課
山梨県(富士北麓・東部振興局大月林務環境部環境課)	
富士吉田市(保健福祉部環境政策課)	
都留市(市民部地域振興課環境保全室)	
大月市(市民生活部環境課)	
道志村(住民健康課)	
西桂町(住民福祉課)	
忍野村(地域振興課)	
山中湖村(環境衛生課)	
富士河口湖町(環境課)	
上野原市(福祉環境部生活環境課)	
神奈川県(環境農政部大気水質課)	
平塚市(環境部環境政策課)	
茅ヶ崎市(環境部環境保全課)	
相模原市(環境保全部環境対策課)	
厚木市(環境部環境総務課)	
海老名市(市民環境部環境保全課)	
座間市(環境経済部環境対策課)	
寒川町(町民部環境課)	
愛川町(環境経済部環境課)	
清川村(民生部税務住民課)	
城山町(民政環境部環境防災課)	
藤野町(産業建設部まちづくり課)	
国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所(調査課)	

2004(平成16)年度収支決算

1 収入の部

項目	予算額(A)	決算額(B)	差引増減額(B)-(A)	備考
負担金	3,820,000 円	3,819,880 円	△ 120 円	国土交通省京浜河川事務所 150,000 円 山梨県 750,000 円 神奈川県 2,250,000 円 市(人口10万人以上の6市) 300,000 円 市(人口10万人未満の3市) 90,000 円 町村(14町村) 279,880 円
会費	1,857,000 円	1,663,580 円	△ 193,420 円	市民(団体) 273,580 円 公営事業者(6事業者) 950,000 円 その他事業者 440,000 円
参加費	140,000 円	81,000 円	△ 59,000 円	
繰越金	1,296,753 円	1,296,753 円	0 円	
雑収入	20,085 円	21,180 円	1,095 円	預金利子等
合計	7,133,838 円	6,882,393 円	△ 251,445 円	

2 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	残額(a)-(b)	備考
会議費	888,800 円	451,210 円	437,590 円	会議室使用料 60,700 円 総会講師謝礼 1,540 円 市民交通費 288,760 円 議事録作成等経費 0 円 専門部会専門家謝礼 8,210 円 地域協議会運営経費 90,000 円 資料印刷等経費 2,000 円
事業費	5,036,165 円	4,054,176 円	981,989 円	クリーンキャンペーン 166,095 円 上下流交流事業 642,085 円 流域シンポジウム 564,117 円 ホームページ運営事業 245,649 円 流域ツアー&ウォッチング 77,086 円 洗剤対策事業 20,844 円 環境調査事業 60,390 円 流域の魅力再発見事業 50,420 円 会報誌の発行事業 623,620 円 年報作成事業 530,858 円 地域協議会事業費 601,890 円 流域データベース化共同事業 76,880 円 森づくり関係事業 388,137 円 その他事業 6,105 円
事務費	908,873 円	963,536 円	△ 54,663 円	会議通知郵送料 485,040 円 通信費 105,000 円 事務局だより 6,241 円 事務用品等 209,335 円 チラシ印刷費 157,920 円
予備費	100,000 円	0 円	100,000 円	
新規事業積立金	200,000 円	200,000 円	0 円	
合計	7,133,838 円	5,668,922 円	1,464,916 円	

収入の部決算額(1) 6,882,393 円
 支出の部決算額(2) 5,668,922 円
 差し引き残高(1)-(2)=(3) 1,213,471 円 (2005(平成17)年度に繰越)

2005(平成17)年度予算

1 収入の部

項目	予算額(A)	前年度予算額(B)	差引額(A)-(B)	備考
負担金	3,800,000 円	3,820,000 円	△ 20,000 円	国土交通省京浜河川事務所 140,000 円 山梨県 750,000 円 神奈川県 2,250,000 円 市(人口10万人以上の6市) 300,000 円 市(人口10万人未満の4市) 120,000 円 町村(12町村) 240,000 円
会費	1,857,000 円	1,857,000 円	0 円	市民(団体) 297,000 円 公営事業者(6事業者) 950,000 円 その他事業者 610,000 円
参加費	250,000 円	140,000 円	110,000 円	上下流交流事業 180,000 円 上流@1,000円×100人=100,000円 下流@1,000円×80人=80,000円 森づくり関係事業 70,000 円
前年度繰越金	1,213,471 円	1,296,753 円	△ 83,282 円	
雑収入	20,085 円	20,085 円	0 円	預金利子等 20,085 円
合計	7,140,556 円	7,133,838 円	6,718 円	

2 支出の部

項目	予算額(a)	前年度予算額(b)	差引額(a)-(b)	備考
会議費	688,500 円	888,800 円	△ 200,300 円	会議室使用料 88,000 円 総会講師謝礼 30,000 円 市民交通費 360,000 円 議事録作成等経費 78,000 円 専門部会専門家謝礼 131,500 円 資料印刷等経費 1,000 円
事業費	5,674,550 円	5,036,165 円	638,385 円	クリーンキャンペーン 134,150 円 上下流交流事業 1,391,700 円 流域シンポジウム 667,000 円 ホームページ運営事業 170,000 円 流域ツアー&ウォッチング 205,000 円 洗剤対策事業 35,000 円 環境調査事業 231,200 円 流域の魅力再発見事業 0 円 会報誌の発行事業 639,000 円 年報作成事業 517,500 円 地域協議会事業費 1,238,000 円 流域データベース化共同事業 156,000 円 森づくり関係事業 290,000 円
事務費	557,506 円	908,873 円	△ 351,367 円	会議通知郵送料 276,675 円 通信費 115,000 円 事務局だより 16,500 円 事務用品等 149,331 円
予備費	20,000 円	100,000 円	△ 80,000 円	
流域マップ作成事業積立金	200,000 円	200,000 円	0 円	流域マップ作成事業に係る積立金 200,000 円
合計	7,140,556 円	7,133,838 円	6,718 円	

編集後記

当協議会が発足したのは平成10年1月です。以来8年が経過し、当初は活動毎の報告書でしたが、今では活動全体を総覧できるように年次報告書（6冊目）として定着してきました。流域アジェンダの理念を共有し、絶えずその高みを見据えつつ、取り組んだ成果が報告されています。

当初、このような市民・事業者・行政の三者による協議会方式による流域管理は珍しくもありました。以後の8年間には、こうした市民・NPO活動の先駆性と専門性を原動力とする協働方式自体は、地域各所で取り入れられています。また、相模原地域協議会が誕生するなど、地域協議会活動の拡充もあり、その成果も加わってきました。こうした時代の流れを反映して、今年度の年報の質は、ページ数こそ少なくなっていますが、質的な重量感が増したという印象を持っています。こうした緒経過を尊重して、今後とも編集に当たりたいと考えています。（M）

この年報は2005年度の活動報告であるが、2006年度に食い込んで作成をされている関係で、2006年度の事業が同時にすでに進行している。2006年度環境調査の魚道調査の講習と実習は高校生、大学生も参加、26名で賑やかだった。（K）

コイの環境ホルモン、ホタル生息状況、淡水シジミと、生きものの調査に関わってきて、流域の生物たちのおかれた状況も近年、劇的に変わっていると痛感しています。「生物多様性を守る、イコール環境の多様性を守る」を肝に銘じたいと思います。（A）

海老名市は相模川の中・下流域に属しておりますが、今回、活動報告書の作成に微力ながら参加させていただき、上流域での活動を知る良い機会となりました。（K）

はじめて、この協議会の事業に参加しましたが、多種多様の活動が年報作成作業を通じて理解することができました！これからも、環境美化や保全活動などを通じて河川をもっときれいにしてもらいたいです！（O）

2005年度活動報告の編集作業を進めていくうちに、皆さんが強い思いを持って桂川・相模川流域の環境保全に取り組んでいることを改めて感じました。今後も桂川・相模川が清く豊かに流れるよう流域環境保全に取り組んでいきましょう。（O）

今回は、読み手の方にとって読みやすくなるよう、共通ルールである「作成の手引き」を活動報告担当で作成し、それによる執筆をお願いしました。結果、全体の統一が図れたなど一定の成果がありました。しかし、見直す点も多く、今後の課題です。（H）

平成16、17年度の代表幹事であり、当協議会の発展に御尽力いただいた小宮昇様が、平成18年4月5日お亡くなりになりました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

※ ご意見、ご感想がありましたら事務局までお寄せください。

2006 年 3 月発行

編集発行 桂川・相模川流域協議会

事務局 山梨県大月林務環境部環境課

〒 401 - 0015

山梨県大月市大月町花咲 1608 - 3

電話 0554 - 22 - 7838

神奈川県環境農政部大気水質課

〒 231 - 8588

神奈川県横浜市中区日本大通 1

電話 045 - 210 - 4127

.....
なお 2006 年 4 月からは、山梨県の事務局は次のとおりとなります。

●山梨県富士・東部林務環境事務所環境課

〒 402 - 0054

山梨県都留市田原三丁目 3 - 3

電話 0554 - 45 - 7811